

## 芸北田園空間博物館の展開

広島県田園空間博物館整備地方委員会  
(委員長 中越信和 教授)

### Development of Geihoku Rural Field Museum

The Local Committee for Promotion of the Rural Field Museum in Hiroshima Prefecture  
(Chairperson Prof. Nobukazu NAKAGOSHI)

Hiroshima-Ken Tochikairyō-Kaikan Building, 4-1 Teppōcho, Naka-ku, Hiroshima 730-0017

**Abstract:** Rural landscapes in Japan have been rapidly changing in recent years. In such a situation, a new project has been launched since 1998, aiming to conserve representative rural landscapes and traditional agriculture systems of Japan as our important inheritance. This project is guided and sponsored by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries. Geihoku-cho together with Hiroshima Prefecture proposed to participate in the project and to conduct the programs within the area of Geihoku-cho. It was admitted by the government in 1999 and the area was selected as one of around 50 proposal sites in Japan for the establishment of rural field museums. Receiving the acceptance, a local committee for the project was established in Hiroshima Prefecture. The committee, Geihoku-cho as well as Hiroshima Prefecture worked together during fiscal 1999 to 2003, and developed and improved necessary infrastructure for the project including program planning and construction works. In this handbook, all of those activities are reported in details, and this effort derives from our desire to keep the records concerning the inauguration of the museum from the beginning. We hope this achievement will be regarded as the original text for the advancement of the museum towards future.

©2004 Geihoku-cho Board of Education, All rights reserved.

はじめに：田園空間博物館とはなにか

古来より、日本は「豊葦原の瑞穂の国」と呼ばれてきた。「瑞穂」とはみずみずしい稲穂を意味し、水田農業によって日本が豊かな歴史と文化を育んできたことの象徴となっている。命あふれる自然、美しい四季に恵まれた風土のなかで、情緒豊かな人々が培われ、独特の文化を築いてきた。そして今、目ざましい科学技術の進歩とともに人間性の尊重の大切さや、生き方に思いをよせるとき、「心のふるさと」である農村を全ての人々の財産として位置づけ、次の世代へ活かすことが重要となっている。

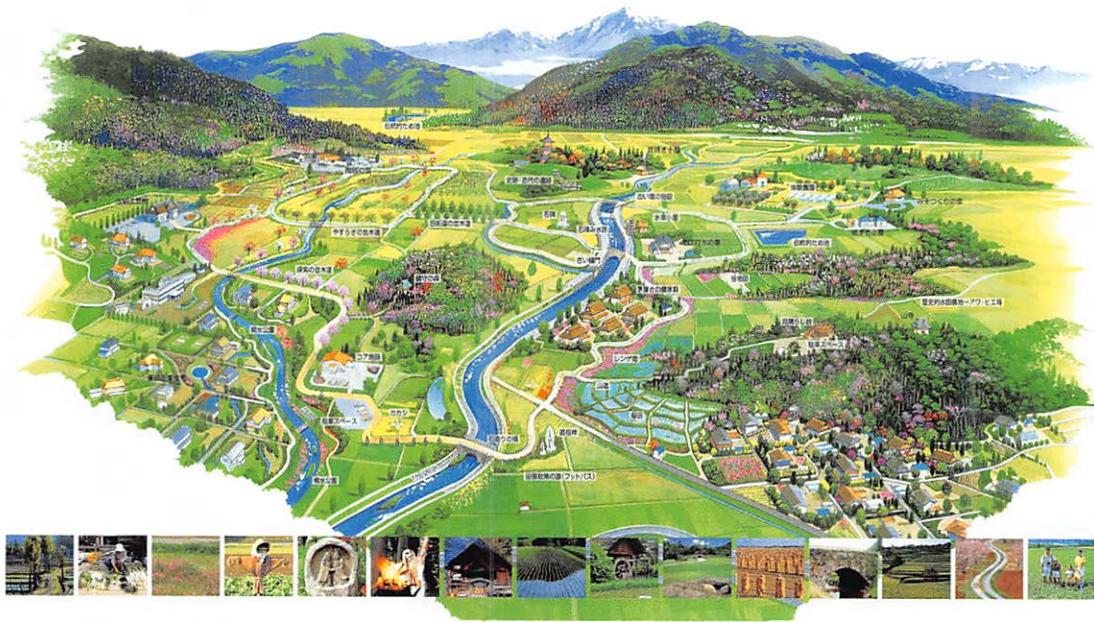


図1 田園空間博物館整備のイメージ

農村がもつ自然・伝統文化など、日本人の原風景をつくりあげてきた様々なものをもう一度見直し、田舎と都会とが共にめざした美しく豊かな田舎を保存・育成・展示・活用するために田園空間博物館として取り組むものである（図1）。

この田園空間博物館の先進的な取り組みとしては、エコミュージアムがあり、1960年代フランスにおいて、ジョルジュ・アンリ・リベール氏の提唱により生まれた活動である。このエコミュージアムを日本の風土に適応させたものを日本型エコミュージアム＝田園空間博物館として、農林水産省において平成10年12月に予算化され現在に至っている。

エコミュージアムとは、「地域及び環境における人間の博物館」を意味し、ある地域の人々が自らの地域社会を探求し、未来を創造するための総合的な博物館である。いいかえれば、人々の生活とその自然、文化及び社会環境の発展過程を史的に探求し、自然及び文化遺産などを現地において保存、育成、及び展示することを通じて地域社会の発展に寄与することを目的としている総合博物館である。

### なぜ芸北（芸北町）に決まったのか

豊かな自然と田園が織りなす空間は、自然の厳しい環境下において、独自の農耕文化と広島県内でも有数の多雨地帯となっている。また、他の市町村には見られない動植物の宝庫となっていることもあり、地域性に富んだ芸北町（図2）は平成8年5月に「芸北町第3次長期総合計画」に位置づけられた「ときめき21プロジェクト」の主要プロジェクトの一部として、全町自然博物館構想が位置づけられ、その後平成10年12月に予算化された農林水産省事業による「田園空間博物館整備」の内容と整合したため、平成11年1月事業採択へ向け取り組むこととなった。

それでは、なぜ芸北（芸北町）が本当に田園空間博物館として魅力あるものだったのかについて

て地形，歴史，農耕文化，自然資源，観光資源の順に説明する．

### 地形の条件

芸北（芸北町）は，広島県の北西部にあり西中国山地国定公園に位置している．町内（図2）の面積は，253.63km<sup>2</sup>（広島県内平均市町村面積 98.57km<sup>2</sup>）と広く，広島県全体の約3%（市域を除く町村面積の大きい順に，東城町約3.6%，芸北町約3.0%，西城町約2.7%）を占めている．

町内の山は島根県と接している付近に標高1,000m級の山々が連なり，多くは緩やかな傾斜となっている．山麓にはいくつかの小さな盆地や帯状の峡谷を形づくり，おおむね西と北が深く南側が低くなっている．

このような山地条件によって日本海側に流れ出る一級河川江の川や瀬戸内海側に流れ出る一級河川太田川の源の町となっている．

また，町内の標高は低いところで大概400m，高いところで1,300mとなり，600mから1,000mの範囲が約9割を占めている．

このことから，気温については広島県南部平地より通年5℃以上も低くなっている．また，町の中心となる役場周辺では平均気温12.6℃と低く，夏の一番暑い時期（8月）でも平均気温24.8℃となっている．

その他，八幡地域では古代湖の跡が現在は水田地帯となっている．



図2 芸北町位置図



三ツ石山からの展望



古代八幡湖跡



臥竜山と聖湖



臥竜山の岩海説明板



臥竜山岩海上の森林

## 歴史の探査

芸北（芸北町）の歴史は、出土品からの推測であるが、地名が文献に書き表されているものとして、958（天徳<sup>てんとく</sup>2）年の神社創祀が最初となっている。また、1053（天喜<sup>てんき</sup>元）年の宇津木多和合戦においても地名が書かれている。

その後、1570（元龜<sup>げんき</sup>元）年頃、現在の高田郡吉田町にある郡山城の主であった毛利氏の所領となるまでは、幾多の支配領の移り変わりがあり、福島藩や浅野藩の藩政時代を経て、明治を迎えることとなった。

それまでは、奥山庄18ヶ村と三輪庄18ヶ村のうち6ヶ村を一つの地域として、奥山24ヶ村と呼ばれていたが1878（明治11）年には、郡内編成法によって奥山24ヶ村に現在の戸河内町にある小松村と松原村を加え26ヶ村を6区に分けて、戸長役場を置き翌年小板村と松原村は戸河内村戸長役場の管轄に変更した。

1889（明治22）年に市町村制度施行によって八幡村、雄鹿原村、中野村、山廻<sup>やまわり</sup>村の4村が誕生し、後に山廻村は旧庄名にちなみ美和村と改称した。

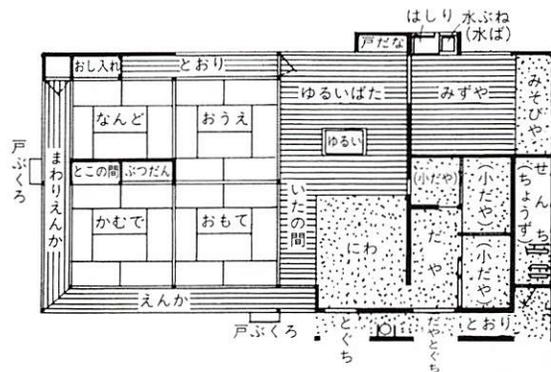
1953（昭和28）年には、町村合併促進法に基づき協議を開始し、1956（昭和31）年に4村が合併となり、新しい芸北町として現在に至っている。

このような経緯を経て、芸北（芸北町）は歴史を歩んできたが、その痕跡となる遺産は、地元で生活している人たちの大切な宝物であるとともに、日本に住む人たちのふるさとを思いおこさせるものである。

芸北（芸北町）には、国の指定文化財（図3）など8件が指定されているほか、広島県指定で4件の指定、芸北町指定で19件の指定がされている。そのほか指定されていない遺産として260箇所あり、これらは中国山地特有のたたら<sup>たたら</sup>の歴史に伴うものや、農民達の心のよりどころとなる神社や寺などが多いことが特徴となっている（図4）。

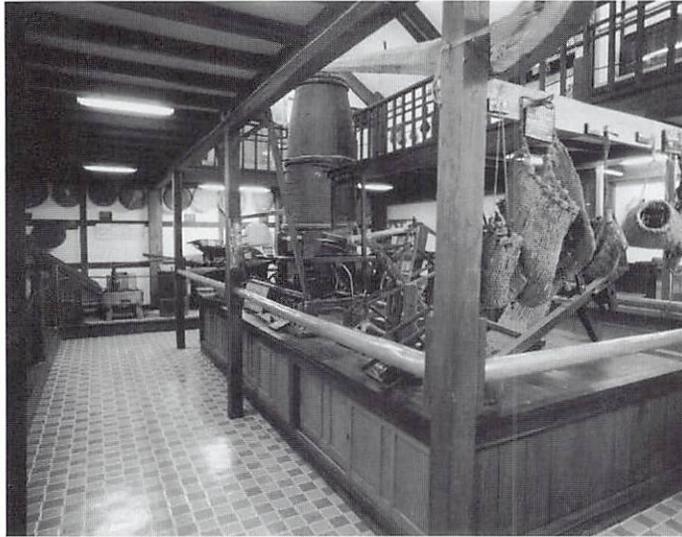


旧榎床集落民家「中門づくりの茅葺屋根の家」



昔の農家の間取り図

図3 国指定重要民俗指定（出展：小学校社会科副読本「わたしたちのまち芸北町」より）



旧樽床集落の農耕・生活具（提供：㈱日本出版）

昭和32年樽床集落があった場所は、現在中国電力による発電用ダムとなり72戸の民家が湖底に没することになった。当時、広島県教育委員会により総合学術調査書「三段峡と八幡高原」の発行により、樽床を含め八幡周辺地域の民俗調査を進めていた結果、樽床集落の生活文化の古い形態が残っていたことがわかり、紛失を憂慮し、水没する半月前から資料を収集し、民俗資料総計479点が資料保護された。昭和34年1月には広島県文化財に同年5月6日に「樽床・八幡山村生活用具」の名称で国の重要有形民俗資料として指定された。

また、「中門造り」（曲り家）は当時3軒のみであり、この内最も古い（推定天明年間）形式を残すことになり、「清水庵」と名づけ昭和40年9月「中門造り」一棟を国の重要有形民俗資料として追加指定されている。

（出展：町立芸北民俗博物館冊子より）

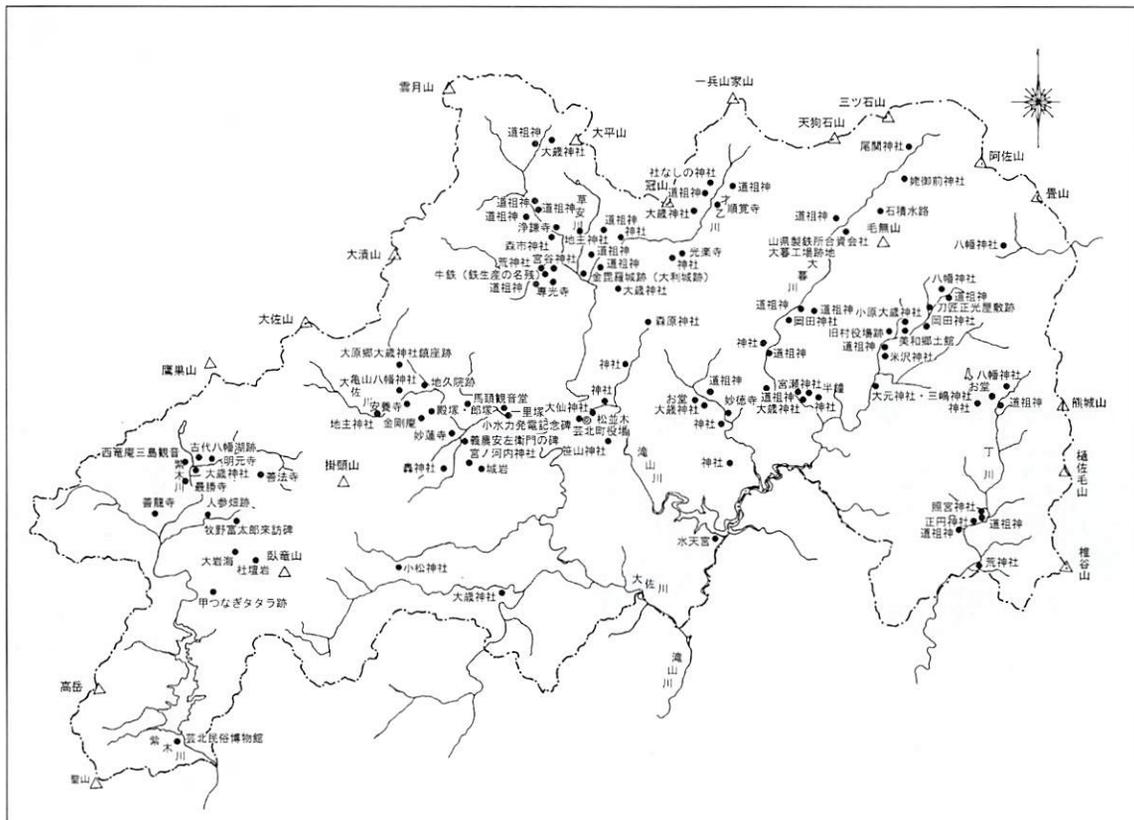


図4 歴史的遺産位置図（一部）



八幡地区大歳神社

穀物の神様である大年神を祀る。戦国時代に創建されたといわれている。社地は浮島と呼ばれ、平地にありながら周囲は洪水時に冠水したが、境内には水が入らなかったといわれている。



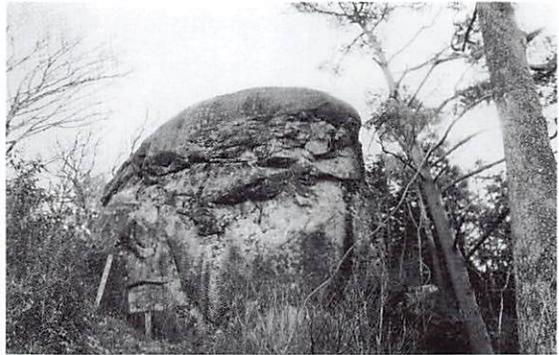
おがほら  
雄鹿原地区亀山八幡神社

天喜元（1053）年頃この地の開拓者、七郎右衛門が西八幡原の山麓で神鏡を得て、この地に奉納したことによる。



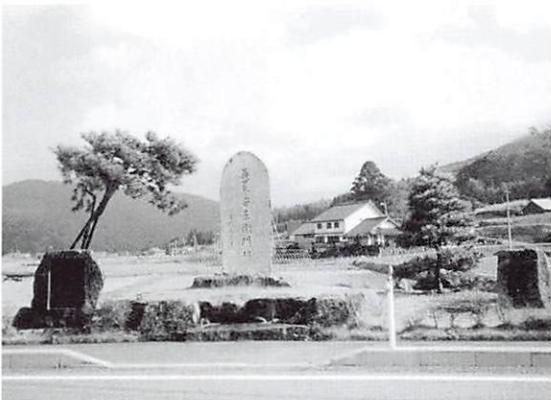
城岩の説明板

応永28（1421）年栗栖権頭が一時この岩を根拠地に陣を敷いたことから、城岩といわれるようになった。



雄鹿原地区城岩

眼下には雄鹿原集落の約7割を一望することができる。



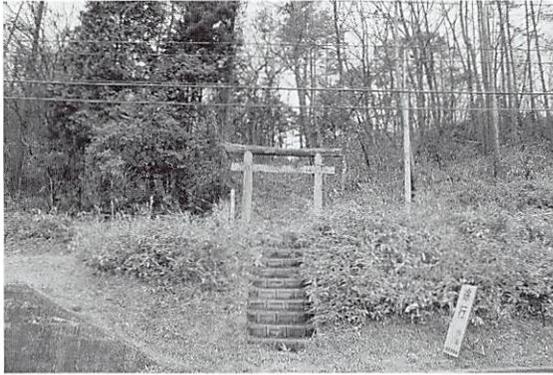
雄鹿原地区義農安左衛門の碑

1657年～1718年、藩の圧政に抵抗して藩全域の農民が立ち上がった享保一揆の指導者の一人である。



安左衛門の碑文

安左衛門は享保3（1718）年11月9日に斬首獄門の刑にされた。



うづつき  
雲月地区大利城跡

天文2 (1533) 年、奥山庄の所領をめぐる起こった栗福合戦の際、石見国毛原庄今市城主 福屋木工丞隆次が、安芸国発坂城主 栗栖権頭親忠を攻める際、その本陣を築いた地であり、雲月の各集落方向を見ることができ、周囲の田園を望むことができる。



雲月地区の数多くの道祖神の一つ



大暮 (美和西) 地区宮瀬神社鳥居



宮瀬神社本殿



美和西 (大暮) 地区山県製鉄所大暮工場跡

明治33 (1900) 年に、政府によって山県郡の「たたら」の歴史に終わりを告げたが、各所に多くの「かじやとくそ」の山があり、これを再生利用するため、明治34 (1901) 年～大正14 (1925) 年まで採業されていた。このときの製品は、生活用品や一部農耕具や民具などの生産を行っていた。



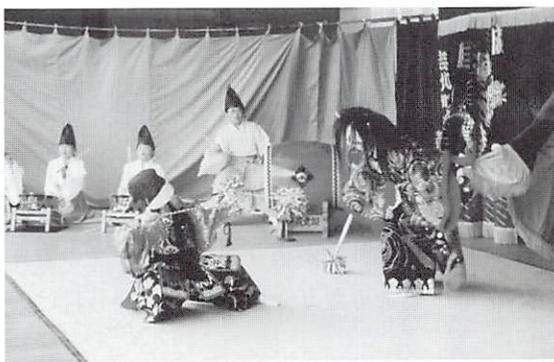
美和東 (溝口) 地区照宮神社

神殿の彫刻に特徴を持ち、寛文3 (1663) 年に遷宮され地域の氏神様としてこの里の平安と五穀豊穡を祈願されている。

## 農耕文化の継承

地形と歴史文化により芸北（芸北町）独自の農耕文化を築いている。特に代表される文化として神楽があり、五穀豊穡を祈願するため現在まで受け継がれている農耕文化の一つとなっている。また、芸北町教育委員会出版のふるさと歳時記などにより様子を見ることはできるが、近年引き継がれているものには「芸北神楽」、「火の山おどり」、「芸北大花田植え」、「乙九日」などがある。

あわせて農業施設として、ため池がある。春先の冷たい水を直接使って稲作をするのではなく、ため池に溜まった表面水（温かい水）を利用して稲作の生育に影響がないよう田んぼに水を入れている。代表的な池として八幡地域にある新川<sup>うづつき</sup>ため池や雲月地域の草安ため池、美和東地域の枕ため池などがあるが、その他は規模も小さく個人管理のため池が9箇所となっている。



芸北神楽



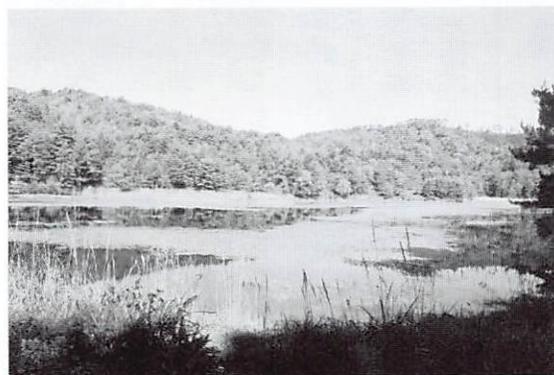
火の山おどり



芸北大花田植え



乙九日



新川ため池



草安ため池

## 自然資源の現況

広島県で最も雨の多い八幡地域では、山々の谷間を中心に湿原が広がっている。代表的な湿原として、尾崎谷の湿原や枕湿原があり豊かな生物のすみかとなっているほか、臥竜山や阿佐山などにブナの原生林が広がるなど、豊かな動植物の宝庫となっている。また、雲月山では一昔前まで山焼きを行っていたことから、この条件に適応した動植物も生息している。その他、滝山峡の谷植生など豊かな植物の生育地となっている。

このような条件に恵まれた自然環境のなか、希少な生物も数多く生息している。平成15年までの環境省や広島県の資料によると、植物で絶滅危惧に指定されている種は、21種となっている。また、哺乳類では12類、鳥類20種、両生類4種、魚類6種、陸産・淡水産貝類3種、昆虫類6種となり、合計で72種類の指定種が生育・生息している。

その他では地形的要因により、豊かな水を流している太田川水系の紫木川や滝山川、大暮川などには自然景観の素晴らしい滝があると同時に四季を通して豊かな水辺空間を創り出している。

また、自然林が多く生育していることから、春の芽生えと秋の紅葉は、町全てがキャンパスに絵を描いたような素晴らしい景観を楽しむこともできる。

その他、世界的植物学者の牧野富太郎博士の来訪（昭和8年6月）があり、カキツバタの野生群落に出逢って、一面に咲き揃った花を摘みとり、ハンカチを染めたり、白シャツに擦り付け大いに喜んだという記録がある。



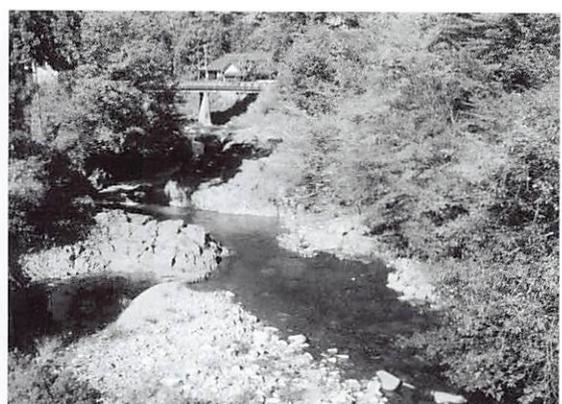
疎林のある湿原



湿原



大暮川



宮瀬の滝

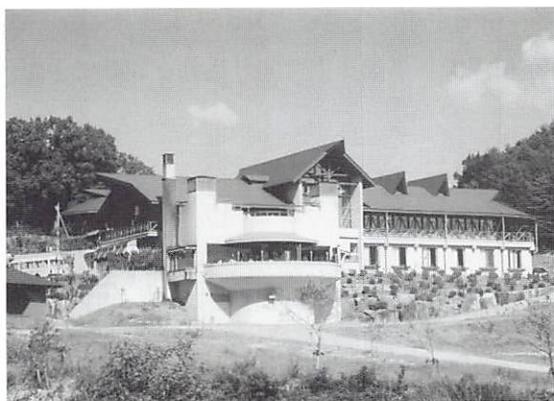
## 観光資源の開発

自然資源を中心に訪れる人たちは多く、春の木々の小枝の先から芽吹く新緑の季節や、6月頃カキツバタが咲き誇る時期には多くの人たちがハイキングなど楽しみに訪れている。また、積雪時期以外では標高1000m級の山々へのトレッキングを楽しむ人や、夏のキャンプなど都会の避暑地としても人気が高く、特に冬季では西日本でも本格的なスキーが楽しめる施設が8箇所あり一年を通し楽しめる場所である。

また、芸北（芸北町）の癒しスポットとして、芸北オークガーデン「森林の館」<sup>もり やかた</sup>には、単純弱放射能冷鉱泉の温泉があり、町内外を含め多くの人たちに利用されている。

その他、各自然活動組織による自然観察会やボランティア組織によるカキツバタ個体群や生育地の復活作業、農業体験など多くの活動が行われ、都市との交流も盛んに行われている。

また、芸北に咲き誇る花々によるリースづくりなど特産品の一つともなるほか、人と人がふれあうことができる施設として民宿などが多く営まれている。



芸北オークガーデン「森林の館」<sup>もり やかた</sup>



スキー場



農業体験



アマゴ釣り大会

## 芸北（芸北町）はすばらしき田舎

以上5項目について書いてきたが、なぜ芸北（芸北町）が広島県で唯一の田園空間博物館として取り組みを開始したのだろうか。

最初にも書いたように、農村のもつ自然と伝統文化など、日本人の原風景をつくりあげてきた田舎が、芸北（芸北町）には存在していたことも理由の一つである。また、町の行政と事業としての取り組みが一つとなるとともに、そこに暮らす人々が一致団結し様々な取り組みを開始していることも理由となっている。

このことから、芸北（芸北町）は田舎にある全てを展示物として、そこにある空気や風景、田んぼと山が創り出す空間と人々が暮らす空間が一つになり（文化的景観という）、農業と農村の伝統文化が融合し合っていることが大きな理由である。

また、地域のコミュニティ活動について、「ふるさと自慢運動推進協議会」（八幡高原、<sup>おがほら</sup>雄鹿原地区、西南地区、<sup>うづつき</sup>雲月、おおぐれ、美和中央、美和東）を中心にふるさとづくりに取り組んでいるところであり、これら活動は歴史・文化の伝承活動の維持と保護に繋がるとともに田園空間博物館として維持管理を円滑に行うことができる組織となっている。

その他、冒頭にも書いたが平成8年5月作成の「芸北町第3次長期総合計画」に位置づけられた「ときめき21プロジェクト」の主要プロジェクトの一部として、全町自然博物館構想が位置づけられた。これが農林水産省の事業メニューにある「田園空間博物館整備」の基本的考え方と整合したため、平成11年1月に広島県農林水産部農村整備課より事業採択へ向け活動を開始できた。

## 事業計画とその足跡

### 事業採択へ向けた取り組み

平成10年8月中旬 「農林水産省構造改善局」より「田園空間整備事業」創設について説明会が開催される。

平成10年11月中旬 中国四国農政局にて、事業制度について説明会開催。  
田園空間整備構想の提出（提出期限平成10年12月7日）と田園空間整備事業新規地区の掘り起こしを要請される。

平成10年11月21日 田園空間整備構想について中国四国農政局と広島県農林水産部農村整備課企画係と打ち合わせ（ヒアリング）を行い、平成11年度は田園整備構想策定、平成12年度田園整備基本構想の作成と事業実施の予定を打ち合わせる。

平成10年12月17日 農林水産省において「田園空間整備事業推進」について説明会の開催。

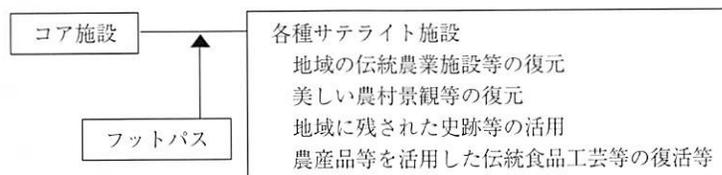
平成10年12月18日 中国四国農政局と広島県農林水産部農村整備課企画係において「田園空間整備事業」への取り組みについて打ち合わせを行う。

この時点で、平成12年度新規採択予定地区として、芸北町での実施を打診し、また、この時点で小水力発電施設整備について、この事業制度で実施の要望を行っている。

- 平成10年12月 田園空間整備事業について国の予算化が決定したため、芸北町へ広島県が打診を行う。
- 平成11年1月6日 別事業として動く広域中山間整備事業と田園空間整備事業実施に向け、整備メニューの選定作業が必要となり、広島県可部農林事務所（現在の芸北地域事務所）農村整備課と芸北町においてすり合わせ作業を行っている。
- 平成11年1月22日 広島県農林水産部農村整備課企画係、広島県可部農林事務所農村整備課、芸北町の3者により「小水力の実施にむけて新規事業制度勉強会」を開催。
- 平成11年2月12日 「田園空間整備事業」推進について東京都内で、全国新規採択30地区担当者に対し説明会が開催されている。出席者は芸北町と広島県農林水産部農村整備課企画係となっている。（東京都内での説明会を受け今後の取り組みの協議を行っている。協議内容は、「田園空間博物館の事業実施は全て、歴史、文化と関与していないと事業化できない」、「用地整備について実施可能範囲が抽象的であった」、「指導推進体制の地方委員会、中央委員会の設置」）
- 4月申請を行う場合、3月16日までに「田園空間博物館基本構想の策定」を行い事前に中国四国農政局と協議を行うこととなる。

#### 各種提出様式

- ・ 田園空間博物館整備基本構想
- ・ 田園空間博物館整備基本計画
- ・ 策定指針の田園空間博物館の基本事項の各項目に対する説明
- ・ 構想図（田園空間整備事業、他省庁事業、地方単独事業）



他省庁事業との連携  
各種事業との調整

- 平成11年3月2日 広島県農林水産部農村整備課企画調査係、広島県可部農林事務所農村整備課、芸北町21プロジェクト推進室との3者会議を行う。
- 協議内容は、農林水産省通達文書において事業内容の確認と採択メニューの確認を行っている。
- 基本となる部分は、農業・農村において歴史と文化、伝統が繋がっていることが必要であり、コア施設とサテライト施設をフットパス（散策道）で接続することが必要である。

#### 協議結果

オークガーデンを全体の交流拠点施設として位置づけ、ゾーン毎のコア施設が必要であることについて結論を出している。このことから各ゾーンにおけるサブコアが必要となり、それぞれのゾーンを「暮らしの博物館」、「阿佐山清流」、「美和東芸術村」、「小水力発電（水の歴史、電気の歴史に関わる整備）」

として4つにサブコア施設を設置することで決った。

サテライト施設については、「<sup>おがほら</sup>雄鹿原歴史の散歩道」,「文化の道」,「雲月山かんな流し見学ハイキングコース整備」として決定する。

平成11年4月8日 4月申請書提出(中国四国農政局)。

平成11年5月 広島県土地改良事業団体連合会において芸北町より事業採択資料作成依頼を受けるとともに、地方委員会設置について協議を行う。

出席者は、芸北町21プロジェクト3名、広島県農林水産部農村整備課企画調査係2名、広島県可部農林事務所農村整備課6名、広島県土地改良事業団体連合会3名による。

地方委員会設置協議については、平成11年1月13日付けの農林水産省構造改善局整備課の事務連絡に伴い、協議を行った結果、本来地方委員会事務局は事業主体である芸北町に設置することが妥当であるが、今後数年における取り組みを考えると広島県においては、広島県土地改良事業団体連合会に事務局を設置することが妥当と決定した。

委員の選任については、学識者、マスコミ関係者、地区代表者、農業者、地域団体関係者等により人選を考えることになった。

事業計画作成に伴う予算については、国の補助措置がこの時点では無く、県と町の負担協議を行っている。

平成11年5月26日 打ち合わせ出席者は、芸北町21プロジェクト2名、広島県農林水産部農村整備課企画調査係1名、広島県可部農林事務所農村整備課2名による。国の採択事情が明確となる中、平成11年5月24日付けの中国四国農政局より、国としては原則、県営事業で行うことが伝えられ、平成12年度より事業に臨むことを伝えられる。しかし、芸北町としては県営事業は難しい状況であることから、前倒しとして平成11年度採択を検討しているところであり、そのためには次の4項目を検討整理する必要がある。その1つとして、町的意思確認、2つ目は、県は町の意向を尊重する(11年度採択への前倒しについて進める用意があるとのこと)。3つ目は、地域戦略プランへ事業を入れる必要がある。この場合、他事業との差し替えが必要。4つ目は11年度前倒し採択申請しても必ず採択されるとは限らないということであった。しかし、この時点では既に1つ目から3つ目については困難を要することから、前倒し採択とするため、再度整理すると、①採択までのスケジュールは基本的には変わらないと思われる。②新たな事業費の予算化が必要。③新規事業のため、県財政と早急に協議する必要がある。

平成11年6月11日 広島県農林水産部農林企画課と農村整備課により平成11年度前倒し採択に向け県の予算確保について打ち合わせを行う。

6月9日付けの打ち合わせメモによると、国の基本的考え方は、平成12年度新規採択地区として指導を行っているところであるが、芸北町における事業内容を考慮し、起債措置、租税特別措置、供用後の維持管理を考慮すると、

団体営事業の実施が妥当と判断していることから、例外的に団体営事業として実施要望を考えている。団体営事業での実施要望の場合、平成11年度採択要望（9月）とするよう指導があった。

これを受け、広島県としても妥当と判断し、平成11年度採択（9月）を目指し、広島県予算として12月補正を要望することとなる。

※採択までのスケジュール（平成11年の予定）

月	町	県	局(国)
6月	事業計画書の作成		局概要ヒアリング
7月	事業計画書の作成	概算要望額の整理	
8月	事業計画書の作成	概算要望 県ヒアリング	
9月	事業計画書の修正		事業計画書 局ヒアリング
10月	事業計画書の修正		
11月	事業実施承認申請	事業採択申請	採択通知

平成11年6月14日 芸北町21プロジェクト1名、広島県農林水産部農村整備課企画調査係1名、広島県可部農林事務所農村整備課2名、広島県土地改良事業団体連合会1名により「田園空間整備事業」推進について打ち合わせを行っている。

現状報告として、中国四国農政局に対しては、平成11年度前倒し採択を要望済みとしている。

今後の課題については、7月上旬において概要説明が必要であるとともに、県の概算要望に使用するため概算事業費を把握する必要がある。また、小水力発電施設は費用対効果の算出が必要となるほか、地方委員会の立ち上げを事業採択と同時に目指すことについて打ち合わせを行っている。

平成11年7月5日 広島県庁本館地下会議室にて提出資料のヒアリングを行う。

提出資料（各4部 本省、局事業計画課、局整備課、県）

- ・田園整備構想
- ・田園整備構想図
- ・田園空間博物館整備基本構想
- ・田園空間博物館整備基本構想図
- ・事業計画概要書
- ・一般計画平面図
- ・小水力発電施設設計画書  
(図面等既存資料可)

平成11年7月22日 田園空間整備事業実施採択申請書提出。

平成11年8月24日 「生き生き暮らしの博物館」づくりの「中門造り」（清水庵）解体移築・収蔵庫・移築改修に関する打ち合わせを文化庁、広島県教育委員会文化課、芸北町教育委員会等と行っている。

広島県教育委員会文化課との協議では、芸北町の暮らしの博物館構想は、広島県教育委員会文化課から再三文化庁に話を行っていることから、先進的なものとして評価している。

文化庁伝統文化課によれば、国の指定物件移築について民俗文化財であっても重要文化財と同等の扱いとする。また、できるだけ文化的価値を失わない

よう使用材や老朽度など詳細調査を行い使用可能材についてはできるだけ使用すること。また、解体移築に関する調査・設計・施工指導管理・報告書が必要となる。

これら意見をふまえ、芸北町としては財政の許す限り、移築し、維持管理による保存を観光施設としての管理であれば容易となることから、移築効果は大きい。

移築しない場合は、レプリカの作成とし、昔の暮らし体験施設として位置づける。また、ビジターセンター的な役割を果す施設を検討。自然史としてのギャラリーが必要。「牧野富太郎」の句碑と八幡高原の自然を展示したものととの整合性をとる必要がある。

- 平成11年8月 生き活き暮らしの博物館における中門造り「清水庵」現況調査報告書作成
- 平成11年9月付け 国（中国四国農政局）から採択通知。
- ・田園空間整備事業「田園空間博物館整備 オークの<sup>もり</sup>森林地区」
  - ・予算額470,000千円
- 平成11年9月27日 芸北町役場内で「行政推進地域担当班長会議」において「田園空間整備事業」の取り組みについて、これまでの経過と内容について説明を行っている。
- 平成11年10月18日 平成11年度田園空間整備事業補助金交付申請書提出。
- 平成11年11月 中国四国農政局より指導があり、事業採択メニューにある「特認事業」の小水力発電とその周辺整備については「田園空間博物館整備」として事業の内容にそぐわないという指導があり、削除している。
- この時点で9月にさかのぼり採択通知が出された。

オークの<sup>もり</sup>森林の由来：本来は<sup>かし</sup>榿、<sup>なら</sup>檜などの木を示すが、一方ではブナ科の落葉高木の総称名で、その雄姿から「森林の王者」とも呼ばれる。このことから、芸北町では地区名を「オークの<sup>もり</sup>森林地区」として整備を推進した。また、既に中央地区として整備している交流拠点施設「オークガーデン <sup>もり</sup>森林の<sup>やかた</sup>館」においても、これを採用した。つまり、芸北町は多くのブナの原生林やナラの二次林があり、町の代表的な樹木となっており、多くの生物の生息地とこれらを取り巻く農村空間を形成している主要素である。

#### 広島県田園空間博物館整備地方委員会設置までの経緯とその後

- 平成11年10月26日 広島県、県可部農林事務所、土改連、芸北町4者合同会議を行う。
- 内容
- ・地方委員会設置について  
(委員選任、事務局の確認、第一回開催日程、予算計上について)
  - ・平成11年度事業への取り組みと進め方について  
(生き活き暮らしの博物館、大暮学校跡地利用計画、山県製鉄大暮工場跡整備計画、歴史の散歩道「史跡修復」、説明看板等の予算計上について)

- 平成11年11月1日 広島県田園空間博物館整備地方委員選任依頼始まる。
- 平成11年11月11日 芸北町役場内において事務局設置を広島県土地改良事業団体連合会に設置と広島県田園空間博物館整備地方委員について決裁。
- 平成11年11月24日 芸北町役場内において広島県田園空間博物館整備地方委員の一部変更決裁。
- 平成11年12月8日 平成11年度第一回広島県田園空間博物館整備地方委員会開催。  
場所：広島市中区上八丁堀8-28 「八丁堀シャンテ 2階真珠」  
委員会設置，委員紹介，委員長選任，芸北町田園空間博物館整備について説明など行う。  
委員出席者：広島大学 中越信和（委員長），広島経済大学 細川弘美，余暇生活開発士 三好久美子，広島ホームテレビ地球派宣言室 森田和稔，地元代表美和地区総代会長 上手 登，芸北町代表監査委員 河野一郎，広島県指導農業士 田中正之  
欠席者：広島県立大学 前川俊清
- 平成11年12月20日 平成11年度第二回広島県田園空間博物館整備地方委員会現地調査予定であったが，大雪のため中止。  
なお広島県立大学 前川委員については連絡がとれないため，芸北町役場にて第1回の内容について説明を行う。
- 平成11年度協議内容は，田園空間博物館としての基本理念について各施設毎のソフト活動に対する方向性について検討された。
- 平成12年2月10日 平成11年度第二回広島県田園空間博物館地方委員会現地調査。  
～ 11日 2日目は室内審議となり芸北町役場2階会議室で開催された。  
内容  
・田園空間博物館整備の基本的な流れと今後のスケジュールと概要  
・今後の委員会に向けての検討
- 平成12年5月29日 平成12年度第一回広島県田園空間博物館地方委員会を開催。  
広島市内の広島県土地改良事業団体連合会会議室で行われた。  
内容  
・田園空間博物館整備基本計画（案）の概要について協議検討  
・今後の委員会スケジュールについて検討
- 平成12年6月19日 平成12年度第二回広島県田園空間博物館地方委員会を開催。  
現地，<sup>おがほら</sup>雄鹿原地域中祖会館と八幡地域八幡高原センターにて，地元との意見交換会を開催した。  
地元出席者は女性会を中心とした人たちである。
- 平成12年11月13日 平成12年度第三回広島県田園空間博物館地方委員会を開催。  
広島市内の広島県土地改良事業団体連合会会議室で行われた。  
内容  
・基本計画（案）に対する協議，検討，まとめについて

・今後の委員会スケジュールについて検討

平成12年度協議内容は、サブコア施設におけるプログラムへの対応や、地域組織など活動方針と連携強化の必要性について協議された。また、資源間の空間の重要性と「ふるさと」をつくりあげる旧小学校改修に伴う整備について検討した。

平成13年 3月22日 田園空間博物館中央委員会・監事会へ提出，説明を行う。

開催場所：東京都 砂防会館5階

委員名：(株)丹青研究所地域開発研究部長 大山由美子，宇都宮大学工学部  
助教授 三橋伸夫，多摩美術大学教授 渡辺一二，(財)日本グラウ  
ンドワーク協会調査研究部専門部長 下地弘之

出席者：芸北町役場21プロジェクト推進室主任主事 奥田淳治，広島県土地  
改良事業団体連合会事業部企画調査課農村整備係長 嶽 政広，農  
村整備係主任 秋山浩三

事務局：全国土地改良事業団体連合会企画研究部 勝又 徹

中央委員会・幹事会では、各資源間の連携とコンセプトの整理をする必要があるなど、基本的事項について協議された。なお、説明しきれていない部分があり誤解をまねいている部分があった。

平成13年 6月6日 平成13年度第一回広島県田園空間博物館地方委員会を開催。

～7日 1日目 芸北町「森林の館」にて審議

2日目 午前中は現地調査。午後八幡「山麓庵」で審議

内容

- ・中央委員会（幹事会）の結果報告に対する対応と今後の検討
- ・美和東旧小学校ふる里活用の検討
- ・整備完了施設の管理体制について協議検討されている

中央委員会に対して疑問点と対応策について協議提出した。その他、地域の連携強化のため資源リストの作成の必要性と活動体制、情報基盤の必要性について協議した。また、取り組みの弱い地域の強化など対応する必要性についても検討した。

平成14年 6月20日 平成14年度第一回広島県田園空間博物館地方委員会を開催。

午前中現地視察。午後美和東文化センターで室内審議。

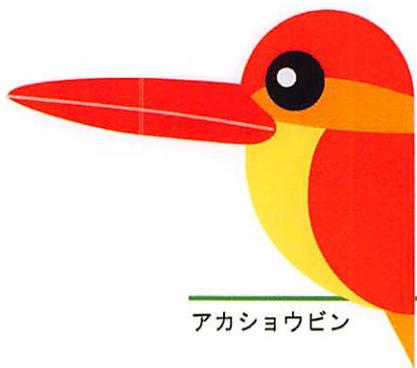
内容

- ・現状と課題について検討を行った

美和東文化センターの取り組みについて協議を行うとともに、コア施設におけるソフト活動を積極的に行うよう協議された。また、既存の樽床の民家と文化ホールについて明確にする必要があるなど協議検討された。あわせて施設における維持管理に対して協議を行っている。

- 平成14年 9月12日 平成14年度農村計画研修会（第24回現地研修会）開催。  
 ～13日 テーマ「元気の出る田園空間の創造」  
 1日目 広島県民文化ホールにて基調講演とパネルディスカッションを行った。  
 基調講演「元気が出る田園空間の創造」  
 熊本大学教授 徳野貞雄  
 講演「オークの森林地区」広島県芸北町役場助役 高橋平信  
 パネルディスカッション  
 「元気の出る田園空間の創造-生産・生活・遊び・教育を目指して-」  
 コーディネーター：広島県立大学助教授 前川俊清  
 パネリスト：熊本大学教授 徳野貞雄， 農業工学研究所上席研究員  
 筒井義富， 広島大学教授 中越信和， 尾三地域事務所主任  
 普及専門員 後 由美子， 山県郡大朝町 山根朝美  
 2日目 芸北町「田園空間博物館」八幡地域「生き活き暮らしの博物館」を  
 視察
- 平成15年 1月24日 第1回 田園空間博物館シンポジウムに参加。  
 ～25日 「未来に伝える個性ある美しい農村空間の創造」  
 1日目 東京都 ヤマハホール； 記念講演， パネルディスカッション， 事  
 例紹介  
 2日目 東京都 農業土木会館会議室；田園空間博物館活動事例報告・意見  
 交換会， 芸北「オークの地区」発表
- 平成15年 6月19日 平成15年度第一回広島県田園空間博物館地方委員会を開催。  
 開催場所：午前現地調査， 午後芸北町美和西「清流の家」。  
 内容  
 ・入りこみ客及び各施設の利用状況報告  
 ・地域田園空間博物館連絡協議会設置について  
 ・ホームページとロゴマークについて  
 ・田園空間博物館地方認定について
- サブコア施設のない雲月・中央（西南）地域では，コア施設の利用を考える必要がある。また，構造的に各種活動について検討すること。ロゴマークについては，「オークの森林」を位置づけ強化するため，シンボルマークを作成する必要がある。このため森林棲で大木を必要とする「アカショウビン」をデザイン化すること。次回の委員会でデザインの承諾を得るよう作成。地方認定については，基準（案）を提示し修正など必要事項の協議を行う。
- 平成15年12月22日 平成15年度第二回広島県田園空間博物館地方委員会を開催。  
 開催場所：広島市内 広島県土地改良事業団体連合会 2階会議室  
 内容  
 ・維持管理の方向性と地方認定について  
 ・オープンイベント開催について

維持管理については、合併までに財源を確保するよう協議を進めている。地方認定については、今後各委員において雛型を作成し地方版を作成することとなる。ロゴマークについては、「アカショウビン」をデザイン化したものを提示し(右)、了解を得る。オープンイベントについては、できるだけ地元の人たちが地域内で参加できるように取り組むよう行うこと。



# 芸北 田園空間 博物館

## 平成15年度末までの整備状況

平成16年度以降は、芸北(芸北町)独自の田園空間博物館をより効率的な運営と農業・農村文化を継承していくため平成16年4月に新たな組織を立ち上げるよう取り組んでいる(図5,表1)。

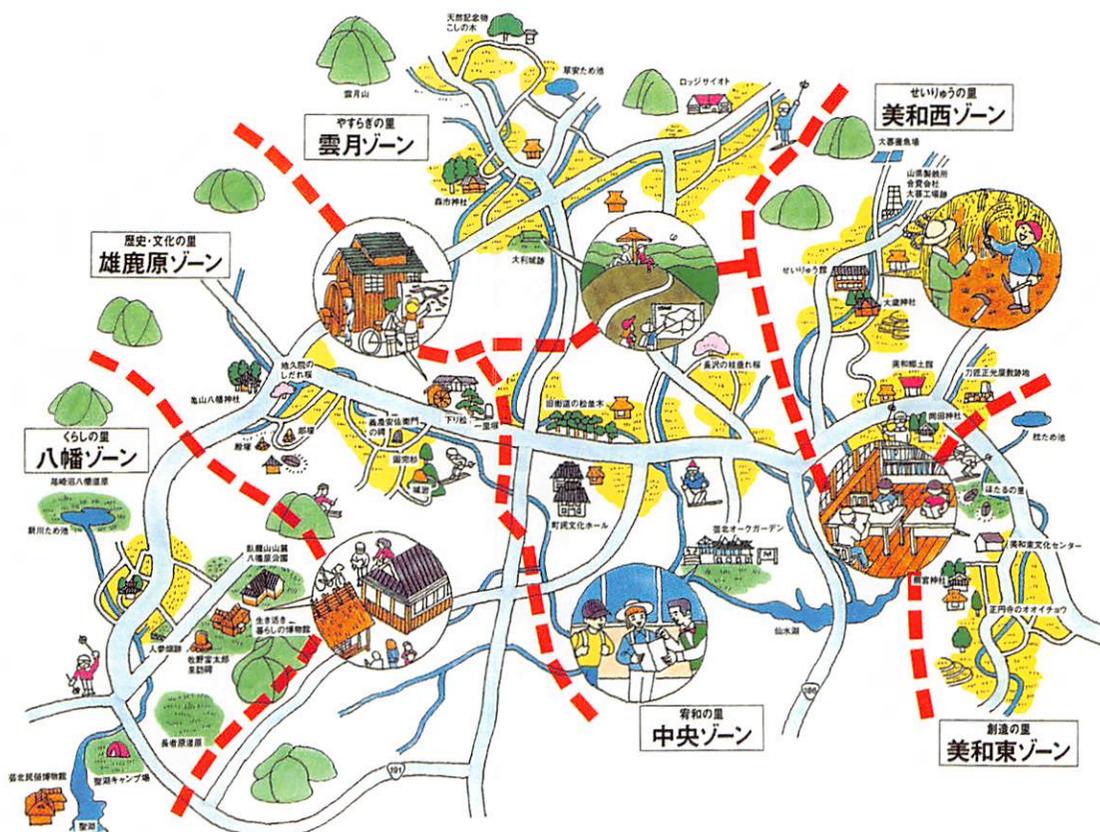


図5 田園空間博物館整備状況(全体)

表1 年度別整備の状況

整備地域	1999年度 (平成11年度)	2000年度 (平成12年度)	2001年度 (平成13年度)	2002年度 (平成14年度)	2003年度 (平成15年度)
八幡 くらしの里	生き活き暮らしの博物館 測量・設計 説明看板人參畑 古代湖遠望地 八幡湿原 三島観音 大歳神社 牧野博士 園路整備 八幡湿原進入路	生き活き暮らしの 博物館 建築工事		説明看板 大型看板	
雄鹿原 歴史・文化の里	説明看板 大型看板 馬頭観音 一里塚・下り松 殿塚・郎塚 金剛庵、城岩 固完杉、地久院 亀山八幡神社 義農安左衛門	地久院修復	亀山八幡神社前広場 整備	周遊道整備 (城岩)	
雲月 やすらぎの里			大利城跡整備	説明看板 大利城跡	
中央 宥和の里				説明看板 長沢の桜	案内看板 大型看板
美和西 せいりゅうの里	製鉄所跡地 測量	清流の家改築工事	製鉄所跡整備	説明看板 大型看板 刀匠正光屋敷 製鉄所跡	
美和東 創造の里			美和東文化センター 改築工事	説明看板 照官神社 サクラソウ	案内看板 大型看板



牧野富太郎句碑 (八幡地域)

昭和8年6月に牧野富太郎博士がこの地を訪れ、次のように書いている。広島県安芸の国(県の西部)の北境なる八幡村で、広さ数百メートルにわたるカキツバタの野生群落に出逢い、折ふし6月で、花が一面に満開して壯観を極め、大いに興を催し、さっそくたくさん花を摘んで、その紫汁でハンケチを染め、また、白シャツに擦り付けてみたら、たちまち美麗に染まって、大いに喜んだことがあった。その時、興に乗じて左の拙句を吐いてみた。

- ・衣に摺りし昔の里かかきつばた
- ・ハンケチに摺って見せりかきつばた
- ・白シャツに摺りつけて見るかきつばた

## 八幡地域

### ① 整備内容とその関係施設

八幡地域での整備された内容は、サブコア施設となる「生き生き暮らしの博物館」や各農業に関わる歴史的遺産の説明案内板6基、尾崎谷へ入る散策道整備、その他関連施設を含む八幡地域全体の大型案内板の整備となっている（図6）。

また、既にある農村の歴史的遺産や施設を利用する活動組織（八幡高原ふるさと運動推進協議会）などにより、点と点の資源とその点と点の間にある空間（農村風景）も含めたものを田園空間博物館としている。特にこの八幡地域では、ダムの底に沈んだ樽床の集落は、忘れてはならない遺産の一つとなっている。

そのほか、湿原には多くのカキツバタが咲き誇るとともに、森のダムとなっている臥竜山のブナの原生林は、八幡地域に住む人たちの大切な水の源となっているほか、広島市などに住む人たちにとっても大切な水となっている。

このように水は人の暮らしと農業や、数多くの動植物の生育や生息に欠かせないものとなり、生活と農業文化に密着した歴史を創りあげてきた地域となっている。

### ② 生き生き暮らしの博物館（サブコア施設 中門造り「山麓庵」茅葺屋根の家、図7）

この施設は、八幡地域周辺の案内施設として位置づけている。特に芸北町が進めている「芸北全町自然博物館構想」との整合性が高く、「芸北高原の自然館」と農村文化を伝える「中門造りの茅葺屋根の家」との同時展示により、農業と自然が織りなす大切さを実感できる施設とし

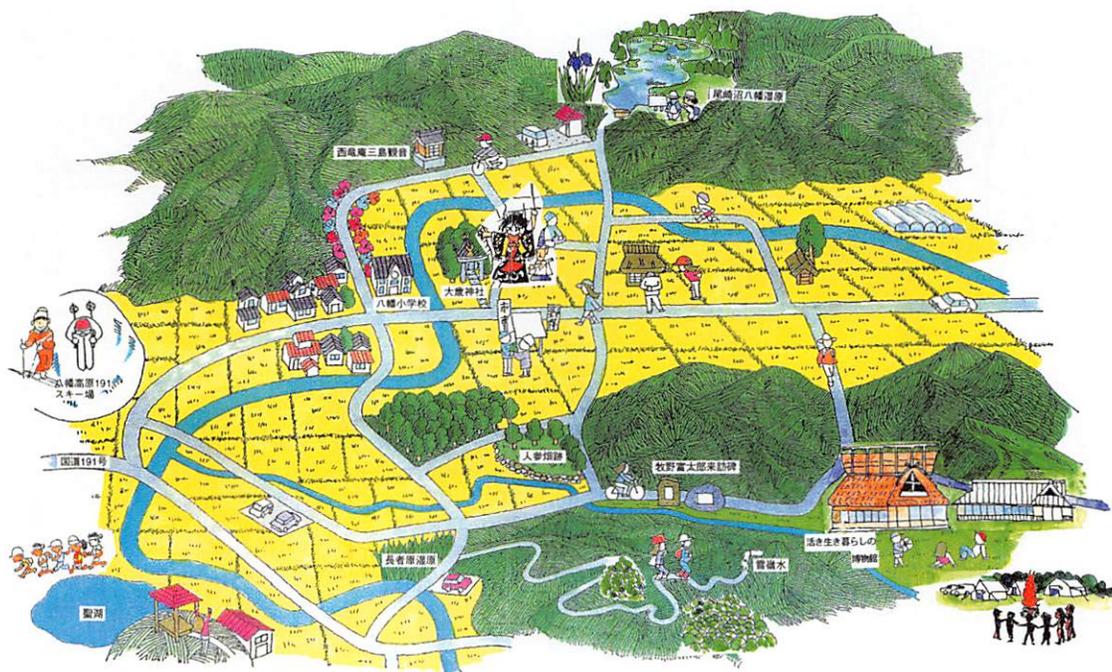


図6 八幡地域の田園空間博物館整備

て整備している(図8)。また、周辺の自然と田園に広がる様々な農村文化や歴史の案内も行っているところである。

中門造りとは、雪深い地方の家屋形式で昭和の初期頃まで、この地域にあった建物である。生活の一部となっている牛馬を大切に育てるため、一つの屋根の下で一緒に生活ができるように作られた建物をいう。

また、中門造りの茅葺屋根の家は、近年では珍しい屋根構造で昔の技術でつくられている。

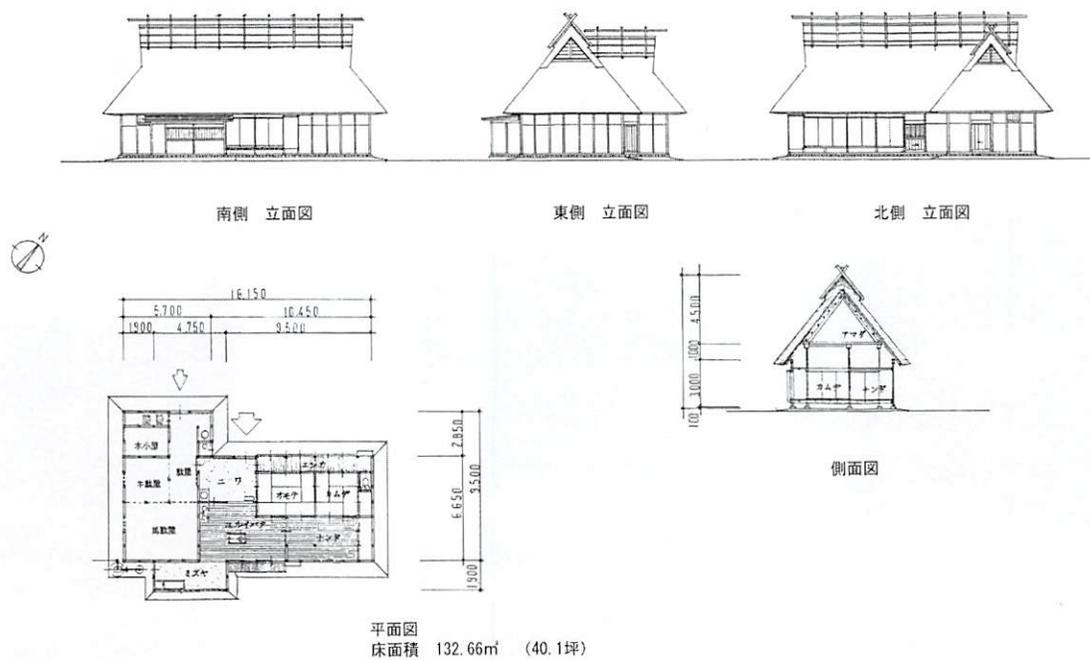


生き生き暮らしの博物館全景



図7 生き生き暮らしの博物館

芸北の民家・中門造り（平面図・立面図）「山麓庵」



芸北高原ギャラリー・茶屋・物産品コーナー（平面図・立面図）

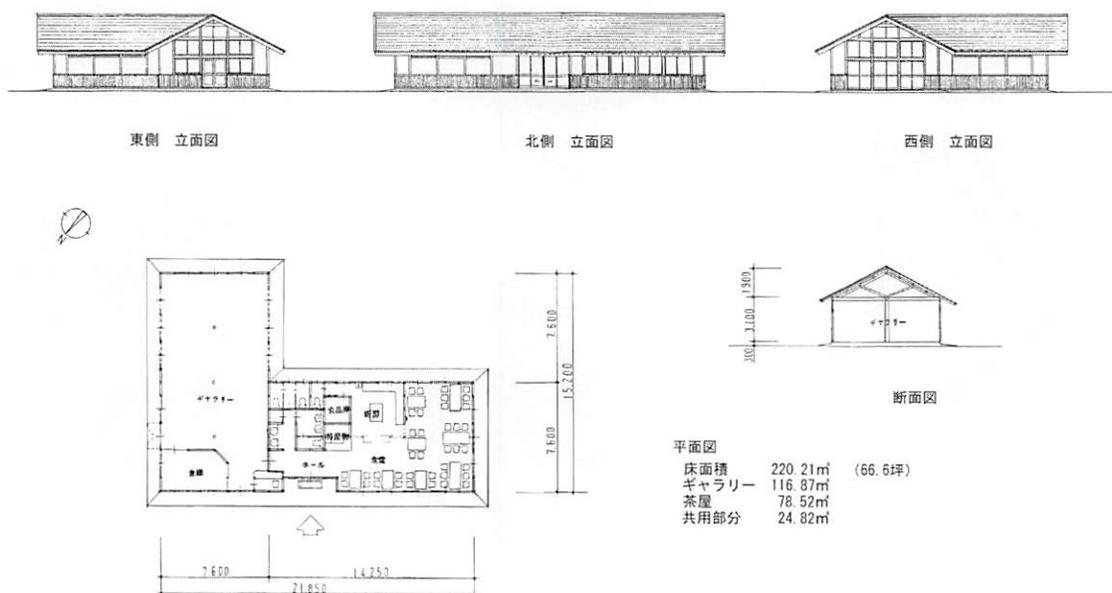


図8 生き生き暮らしの博物館図面



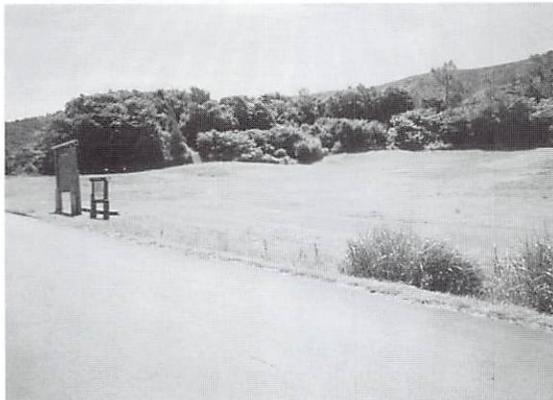
山麓庵

中門造りの茅葺屋根の家。昭和の初めまで八幡地域を中心に立てられていた家屋形式を復元。現在この中には、当時の部屋の様子や地元住民の蔵などに保管されていた農具などを集め、展示されている。展示品は現在も一部は、使用が可能となっている。

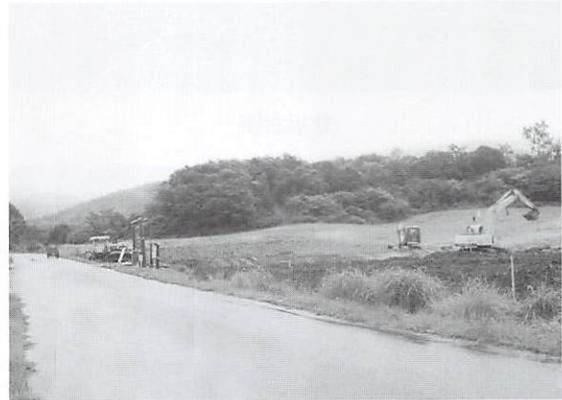


芸北高原の自然館

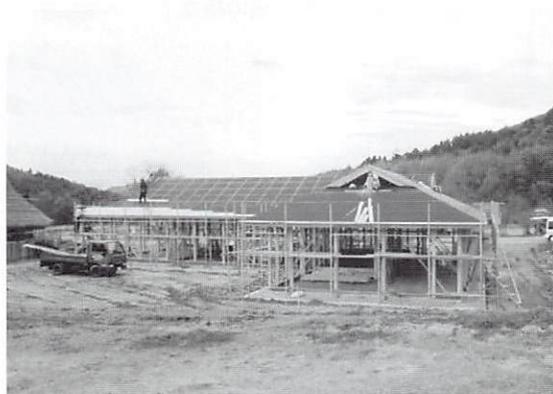
芸北高原の自然館と休憩施設（尚、休憩施設は非補助）。芸北町に生息・生育している動植物の展示を行っている。また、訪れた人たちとのコミュニケーションの場ともなっている。



生き生き暮らしの博物館施工前



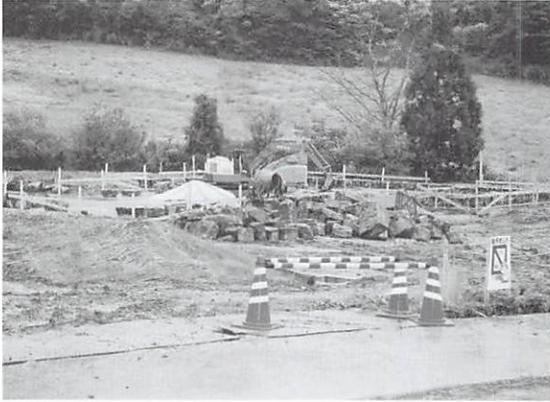
生き生き暮らしの博物館整地



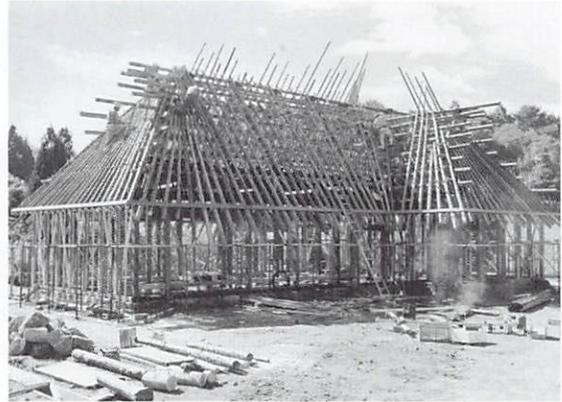
芸北高原の自然館、ギャラリー・茶屋骨組み



ギャラリー内



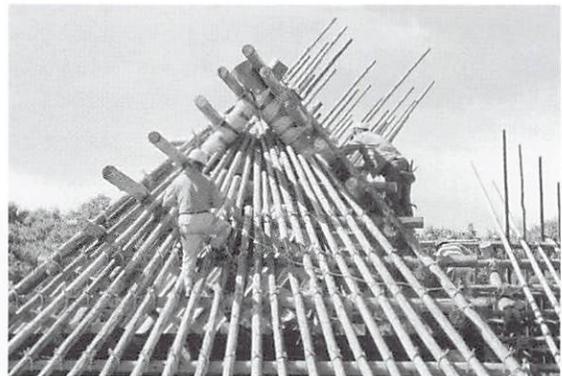
山麓庵「中門造り」、基礎（基礎の石）



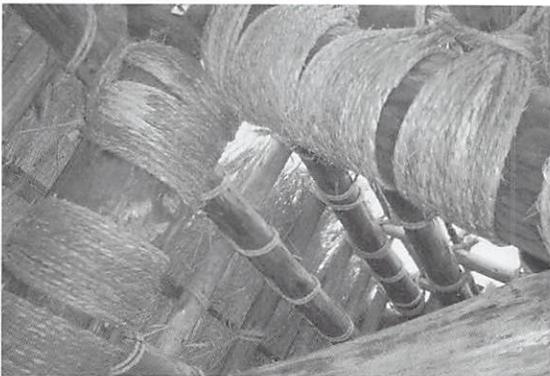
山麓庵「中門造り」、骨組正面



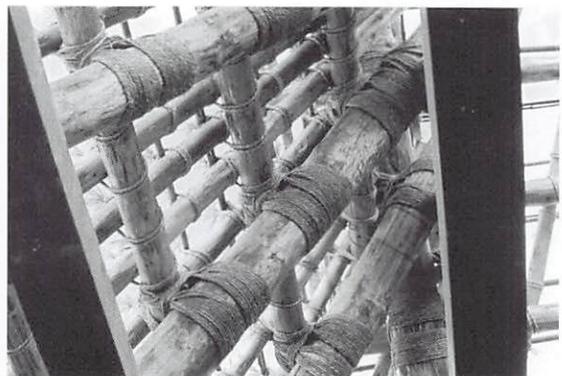
骨組右側



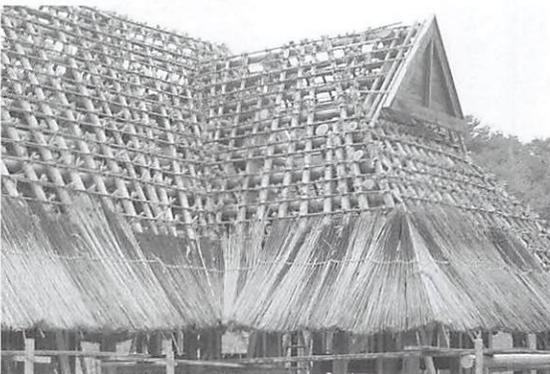
骨組右側



荒縄による屋根の組立て



荒縄による屋根の組立て



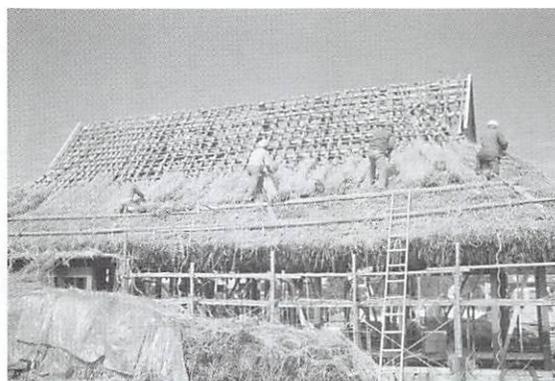
茅葺き始め



茅止め表



茅止め裏



茅葺き



茅葺き



茅葺き



茅葺き



茅葺き



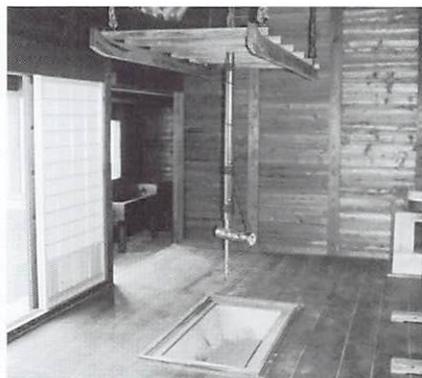
茅整理



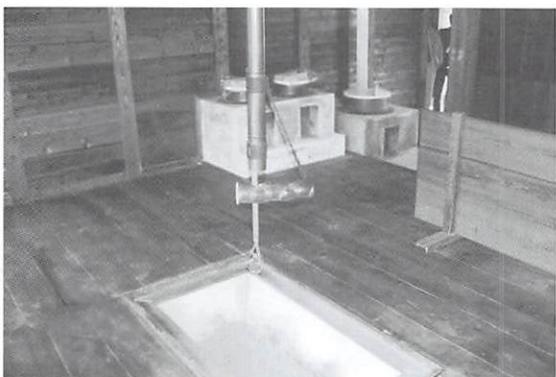
完成



玄関・ゆるいばた



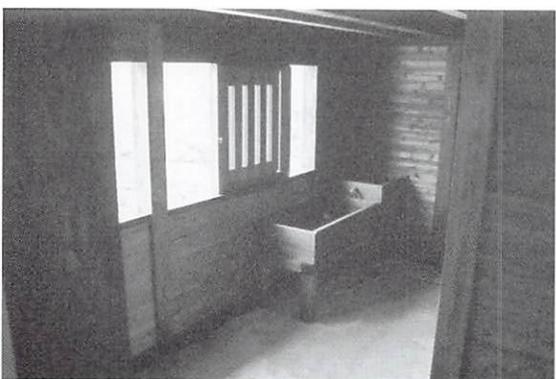
ゆるいばた



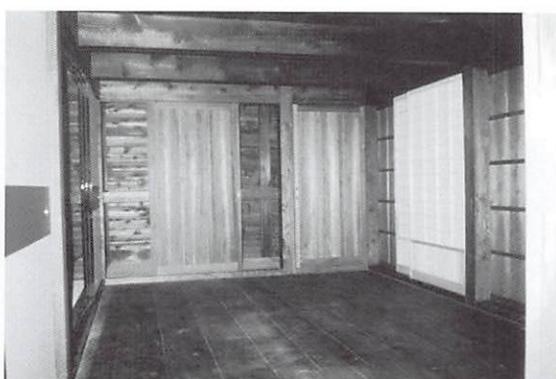
ゆるいと自在<sup>かぎ</sup>鉤



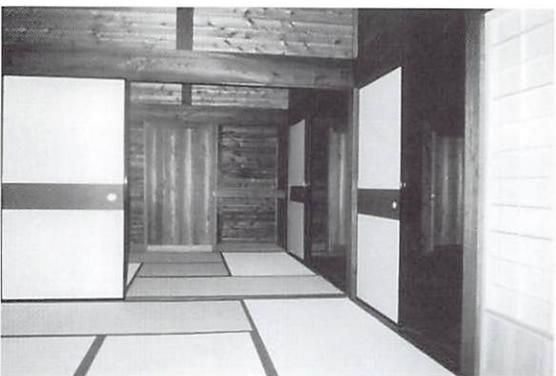
ゆるいの上



みずや



なんど



かむで・おもて



かまど

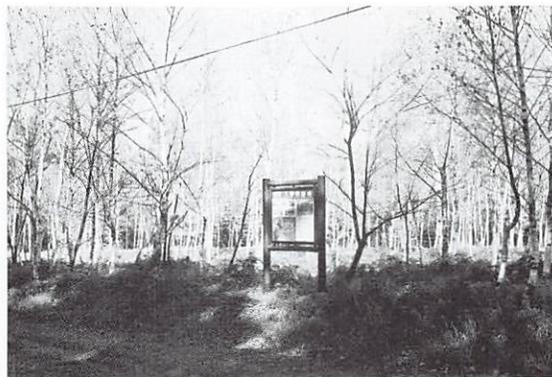
### ③ その他説明看板

芸北（芸北町）八幡地域による農業・農村の歴史と文化となる主要な遺産について説明看板を設置している。



八幡地域全体の案内板

主要な遺産を結ぶ間の空間について田園風景も博物館のひとつとしている。



人参畑「薬用人参」跡

江戸時代、浅野藩は財政難となり、その対策の一つとして、薬用人参栽培を初めた跡地であり、当時、馬糞を町内全域から集めていたという。



西竜庵三鳥観音

昔、大田よりこの地に移り住んだ僧によって開基され道誠寺という寺があった。その名残をとどめる十一面観音菩薩である。毎年秋には地域の人々がお参りし法要を勤めている。



八幡湿原

八幡高原には、尾崎谷湿原、奥尾崎湿原、長者原湿原、千町原湿原などが点在している。これら湿原は、総称して八幡湿原と呼ばれている。



大歳神社叢林

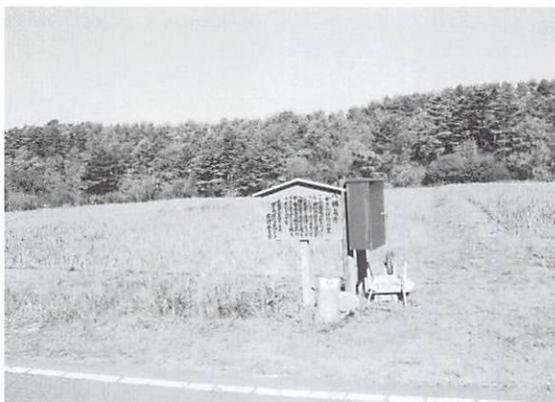
穀物の神様である大年神を祭っている。この地は昔よく冠水していたが、この神社だけが冠水せず、浮島と呼ぶようになった。林は、スギ、ブナ、カエデからなっている。



古代八幡湖遠望地

八幡高原は、古代湖であった。湖が出来たのは洪積世で、初期の湖底は現在の地面よりも高く、臥竜山の西壁が滑り、止水退水が繰り返され、現在の地形が出来た。現在の水田面は湖底堆積物面。

④ その他活動



カキツバタの里づくり（ボランティアによる）



八幡地域野菜等販売所

おがほら  
雄鹿原地域

① 整備内容とその関係施設

雄鹿原地域において整備された内容は、既存施設利用によるサブコア施設「ホリスティックプラザ」を中心に各農業に関わる歴史的遺産の説明案内板10基、散策道整備、交流広場、歴史遺産の修復、その他関連施設を含む雄鹿原地域全体の大型案内板の整備となっている（図9）。

また、その他地域に点在する歴史的遺産や自然遺産など活動組織（雄鹿原地区ふるさと運動推進協議会）などにより、個人資産となっている遺産においても、みんなの共有財産として位

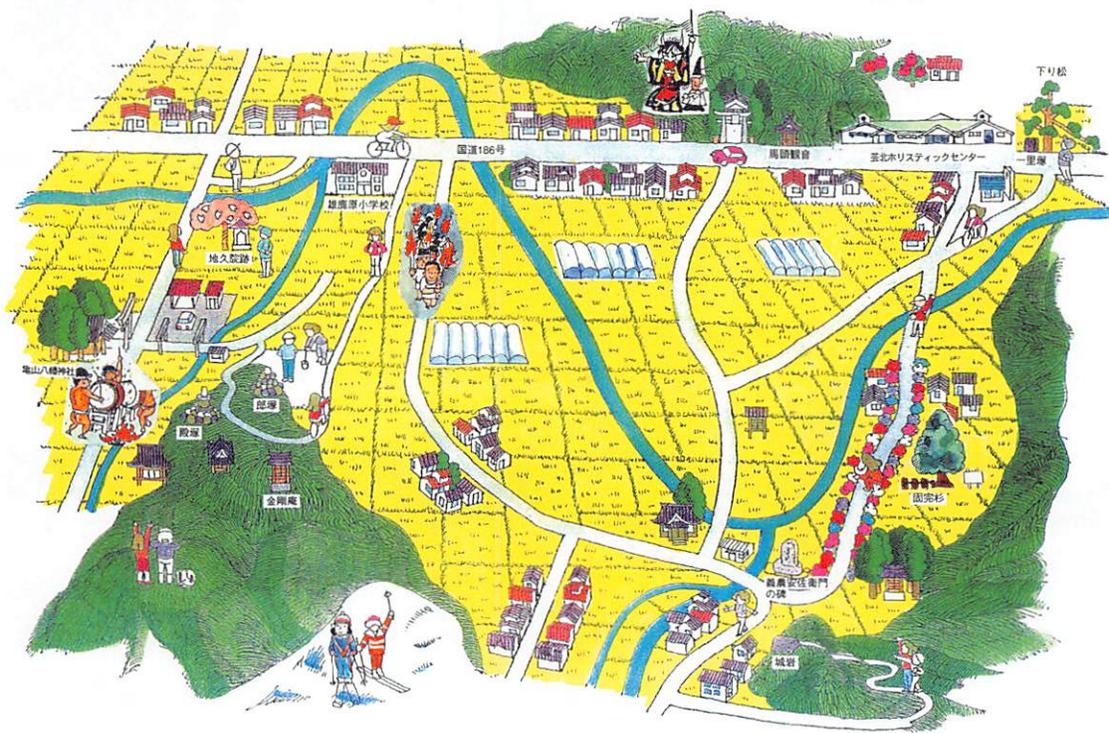


図9 雄鹿原地域の田園空間博物館整備

置づけ維持・管理を行うよう取り組んでいる。また、これら点と点の資源とその点と点の間にある空間（農村風景）も含めたものを田園空間博物館としている。

特にこの地域では、歴史的遺産が多く集中していることもあり、毎年自らの地域を知るウォーキングが開催されている。また、亀山八幡神社では乙九日など歴史ある祭事が行われ、神楽の奉納など五穀豊穡はもとより地域交流の拠点ともなっている。

## ② ホリステックプラザ（既存施設利用によるサブコア施設）

この施設は、雄鹿原地域の入口付近の道路に面した場所にあり、情報拠点として位置づけている。また、プラザ地内では、地元農産物の販売などが行われている。



ホリステックプラザ

## ③ その他説明看板

芸北（芸北町）雄鹿原地域による農業・農村の歴史と文化となる主要な遺産について説明看板を設置している。



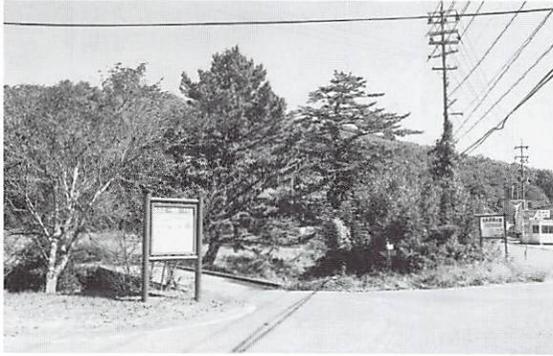
雄鹿原地域全体の案内板

主要な遺産を結ぶ空間について田園風景も博物館のひとつとしている。



ぼとうかんのん  
馬頭観音

頭に馬頭を頂き一切の悪魔、煩惱を碎き伏せる菩薩。昔、この地方の各農家には牛馬がおり、農作業や荷物の運搬をさせていた。頭に馬頭を頂いているところから、牛馬の守り本尊として信仰され、無病息災、安産などを祈願した。



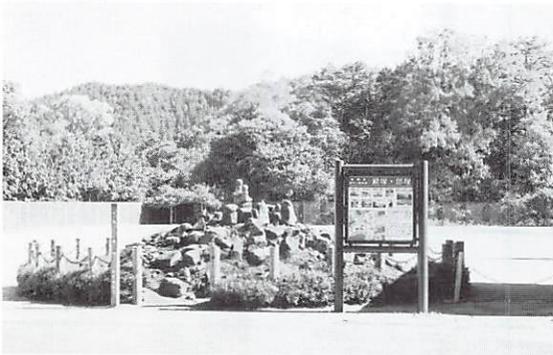
一里塚・下り松

文政年代（1818～1830年）の記録によれば、「雪は丈余（約3m余り）も降積り戸口より出入申さず破風口を開き棟際より入仕り候。…その所の人々にても吹雪に横死仕ることしばしば御座候」とあり、昔から吹雪の日の往來の目印になった老松。



一里塚

現在の場所は、少し移動しているが、陰陽を結ぶ往還道で、一里塚には「左わさ・庄原・ほんち」と刻まれ旅人の重要な道標である。



殿塚・郎塚

殿塚は栗栖権頭の墳墓で郎塚は従者7人の合葬塚である。この丘の麓の金剛庵で主従8人が自刃し、この地に埋葬されたのは永享年間（1429～1440年）の中頃といわれている。



殿塚・郎塚

権頭を埋葬して幾年か後のある朝、狼峙の東の空を白馬に乗った権頭が城岩に向かったのを見たという噂が広まった。この頃凶作が続き、正しい権頭の祟りだと信じられ、亀山八幡神社境内に殿宮神社を建立したものとされている。



金剛庵

寛正2（1461）年の開基。岡田重蔵という人の寄附により建立され、明和4（1767）年に再建したが規模は明らかでない。本尊は地藏菩薩を安置する。ここは、雄鹿原合戦に敗れた栗栖権頭主従8人が互に別れを惜しみながら自刃したところである。

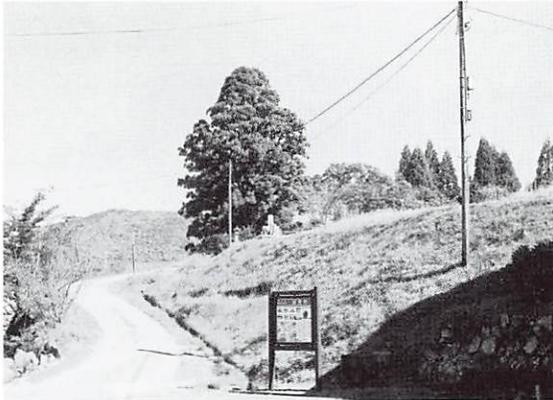
この辺りは蟬時雨の中に、山百合が清楚な香りを漂わせ、源氏蛸と共に雄鹿原名勝の一つに数えられている。



亀山八幡神社

天喜元（1053）年頃当地方の開拓者七郎右衛門が西八幡原の山麓で神鏡を得て、この地に奉祀したことに始まる。祭神は応神天皇。七郎右衛門は老齢になり厳島大明神も勧請した。

また、当境内には、栗栖権頭を祀る殿宮神社や、鉄山の守護神を祀る金屋子神社もある。毎年9月29日に催される乙九日祭りは名高い。



### 固完杉

亀山八幡神社の初代宮司河野固完晴通の墓標樹で「固完杉」と呼ばれている。春通は河野家56代目で伊予国高縄城に生まれ、長曾我部元親との戦いに敗れて慶長（1596～1615年）の初め毛利輝元を頼り、その引き合わせで亀山八幡神社の祠宮となった。荒神原村に山林田畑・米高25石5斗余を給与せられ、初めこの地中祖村神代原に住んだ。



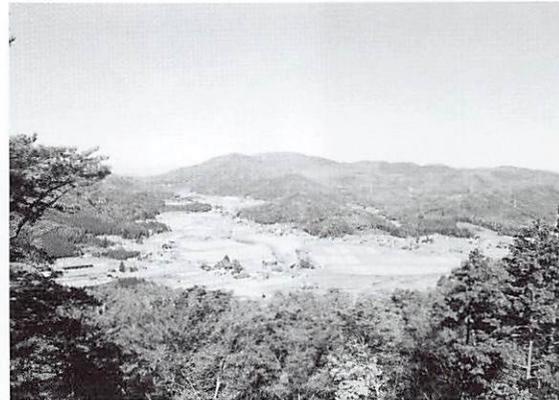
### 義農安左衛門の碑

安左衛門（1656～1718年）は、藩の圧政に抵抗して広島県全域の農民が立ち上がった享保一揆の指導者の一人であった。一揆の首謀者は斬首の刑に処せられ、山県郡では有田の吉左衛門と安左衛門の2人が斬首獄門の刑に処せられた。安左衛門は享保3（1718）年11月9日千代田の河原にて斬首され、この地に獄門された。享年62歳であった。



### 城岩

栗栖・福屋が戦った雄鹿原合戦の時、栗栖権頭が一時この岩を根拠地に陣を敷き「城岩」と呼ばれるようになった。



### 城岩からの展望（雄鹿原一帯が見渡せる）

岩上からは、栗栖に相対する福屋勢が松明を並木に結びつけ大軍を偽装したといわれる依原・牛岩の野も右手遠方に眺められ、眼下には雄鹿原集落の約7割が展開している。



### 城岩のある山を望む

その他城岩への散策道の整備も行われている。この散策道は、事業で行われたものと、地元住民の手により整備されたものからなっている。



地久院

地久院はもと江亀山泉涌寺といい、文明2（1470）年近江国三井寺の源如僧都により建立された。釈迦誕生仏・侍立尊者二体・弥陀・観音・勢至の木版画像一幅を安置する。



地久院のしだれ桜

明治5（1872）年、太政官布告により無壇無柱の旨をもって廃寺となる。この枝垂桜は当時を偲ぶ老木である。

④ その他整備



地久院の修復

柵と屋根の修復を行っている。



城岩への散策道

散策道整備として義木階段の整備。



亀山八幡神社前の広場

亀山八幡神社前の広場は、県道の改良工事に伴い残地が生まれたことから、その土地を利用し地域住民はもとより、都市との交流の場を作り出している。また、地域の歴史を知る伝承の場となっている神社である。



広場花壇

これらの花壇は、地元住民により維持管理されている。

## うつつき 雲月地域

### ① 整備内容とその関係施設

雲月地域での整備内容は、サブコア施設となる施設はなく、歴史的遺産の説明案内板1基、城跡整備とあわせた散策道の整備となっている（図10）。

その他については、現在利用はされていないが、放牧地やかんながしの跡があるほか、雲月山は周辺の緑の中にひときわ目立つ緑地景観をつくりだし、豊かな植物や動物の生息・生育地となっている。また、温水ため池として利用されている草安のため池には、希少な動物の生息が確認されているなど、人間と自然がともに生活する安らぎ空間として位置づけられている。これらとあわせふるさとを守り育てるための活動組織（雲月ふるさと推進協議会）や営農組織などにより、集落全体の美化活動や伝統文化の継承など積極的に取り組まれている。

これら多様な資源や資源と資源の間にある空間（農村風景）も含めたものを田園空間博物館としている。

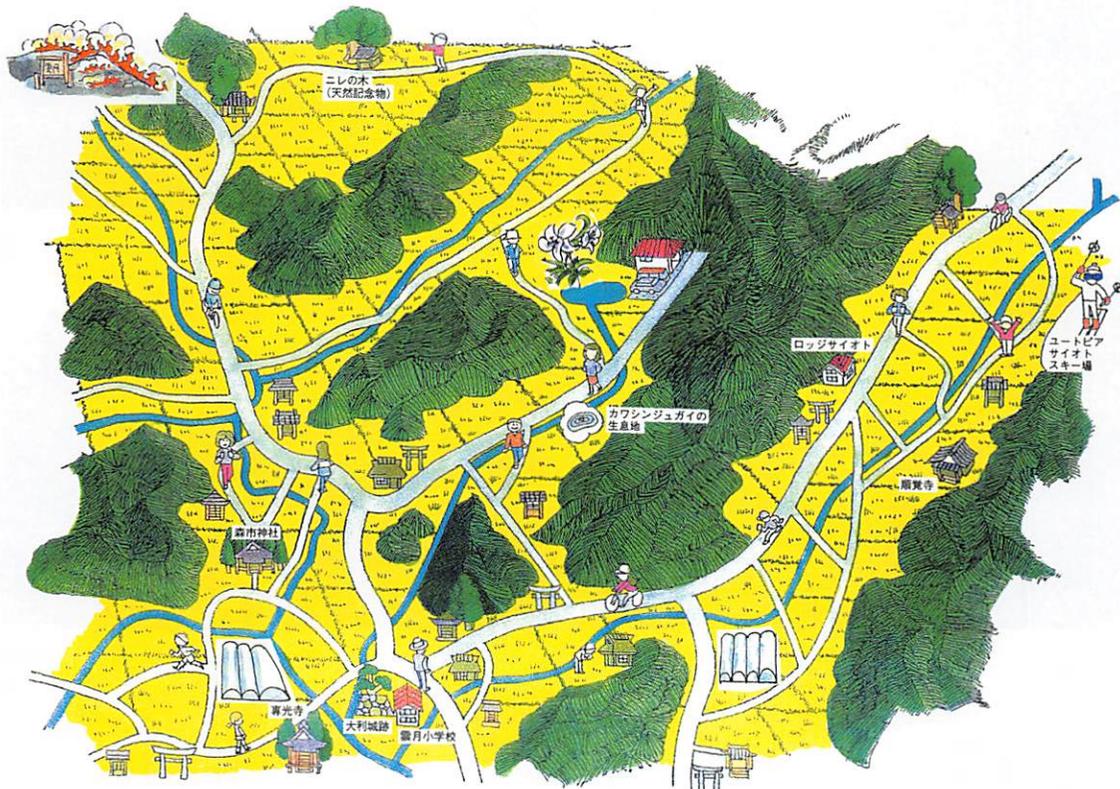


図10 雲月地域の田園空間博物館整備

### ② その他説明看板など

地域の入口に位置する大和城跡からは、雲月地域の谷筋に広がる田園景観を望むことができるとともに、西中国山地の山々の一部を山頂から望むことができる。これら風景そのものを空間の博物館として位置づけている。



大利城跡

天文21 (1552) 年, 奥山庄の所領をめぐって栗栖・福原合戦が起こった。



大利城跡整備

岩見国毛原庄今市城主 福屋木工丞隆次が, 安芸国発坂城主 栗栖権頭親忠を攻める際, その本陣を築いた地であり, 大利城と称していた。



散策道



才乙方面



苺屋形方面



草安方面



田んぼから大利城跡を望む



うんげつ  
雲月山と水田

## 中央（西南）地域

### ① 整備内容とその関係施設

中央（西南）地域での整備された内容は、既存施設利用による全町の情報拠点として位置づけているコア施設「オークガーデン 森林の館」を中心に、町内の各種情報を集め、訪れた人たちに提供する施設としている。また、農業に関わる歴史的遺産の説明案内板1基と芸北（芸北町）全体の大型案内板の整備を行っている（図11）。

これら案内は、森林の館内に設置されている情報施設や職員による人と人との交流による案内など、四季を通じた人の温もりを感じる情報の提供ができるよう取り組んでいる。提供内容は各地域の植物や動物の紹介と歴史的資源の紹介、伝統文化活動（祭りや神楽など）の紹介、各種地域イベントの紹介、地域特産物の紹介など様々な紹介を行っている（図12）。

また、芸北町民文化ホールには、芸北町の貴重な自然を知るうえにおいて大切な資料が保管されるなど、中央地域にふさわしい取り組みが行われている。

このことから、様々な人たちが集い、ふれあう地域として位置づけ、田園空間博物館の拠点としている。



図11 中央（西南）地域の田園空間博物館整備

② オークガーデン（既存施設利用によるコア施設）

この施設は、宿泊のできる温泉施設や各種イベントなどが開催される場所となっているほか、  
田園空間博物館としての情報拠点として訪れた人たちへ温もりのある提供を行っている。

このことから、集客力は高く町内外から訪れる人は一年を通し絶えることがない施設となっ  
ている（図12）。



オークガーデン「森林の館」  
もり やかた

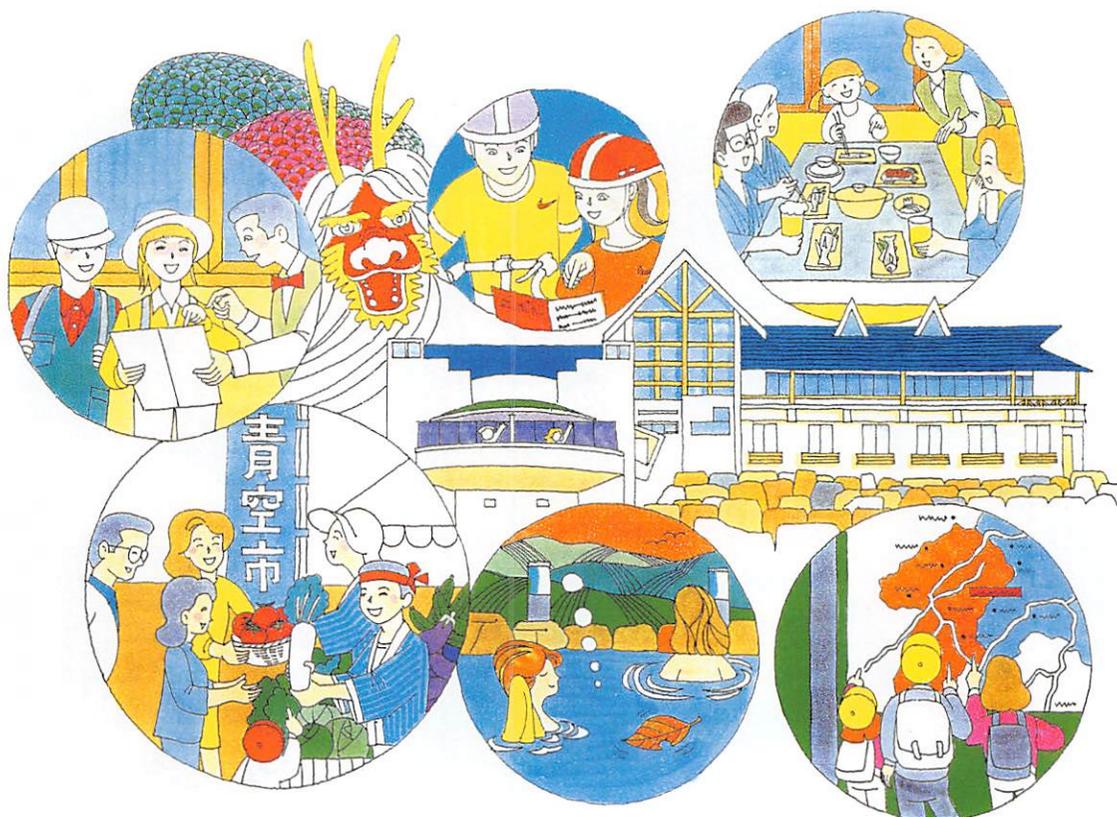
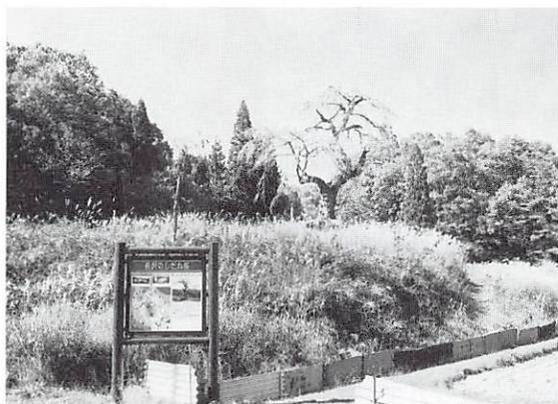


図12 オークガーデンの活用例

### ③ その他説明看板



ながぞう  
長沢のしだれ桜

直径およそ十間（18m）ほどの饅頭形に盛り上がった頂点にあるので、その昔墳墓の標木として植えられたとされ、樹齢は約400年と推定される。また、この地は昔福屋軍が保塁を築いたところとも伝えられる。



ながぞう  
長沢のしだれ桜

この樹木はあまり管理されていないこともあり、樹木の生育は弱り枯死する一歩手前まできていたが、この機会をきっかけに樹木医の治療を受け持ち直し始めている。また、桜が咲く頃、芸北（芸北町）の田植シーズンと重なることもあり、田植の目安として周辺住民から親しまれている。

みわにし  
美和西地域

① 整備内容とその関係施設

美和西（大暮と美和中央）地域で整備された内容は、サブコア施設となる「清流の家」や中国山地特有のタタラの歴史を感じる山県製鉄所大暮工場跡の整備と説明板、刀匠旧家跡の説明看板となっている他は、美和西地域全体の大型案内板の整備となっている（図13）。

また、地域には自然景観の素晴らしい大暮川や阿佐山などがあり、自然の営みを感じる地域として親しまれている地域である。特に鳥根県境の山々から湧き出る水は、大暮川となり清らかな川面を見せ、心をあらわれる素晴らしい情景が形成されている。

このことから、この地域を「清流の里」として位置づけている。

② 清流の家（サブコア施設）

この施設は、美和西（大暮と美和中央）地域の案内施設として位置づけている。特に芸北（芸北町）でも豊かな清流域となっている大暮川を中心に、農業の営みとたたらへの営みが合わさった地域として展示室も整備している。その他、農業体験や大暮川を利用した交流活動も盛んに行われている。これらは地域の活動を支えている各地域のふるさと自慢運動推進協議会などによって積極的に行われている（図14～20）。

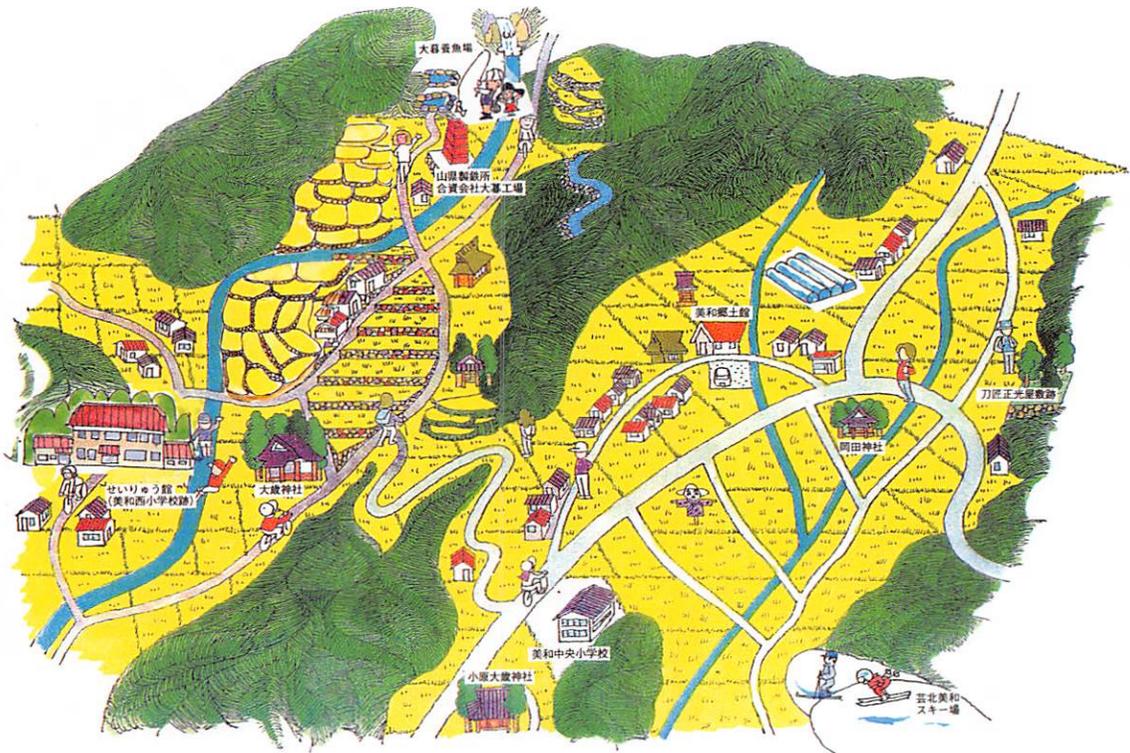


図13 美和西地域の田園空間博物館整備



清流の家 旧美和西小学校



清流の家 完成正面



清流の家 完成背面

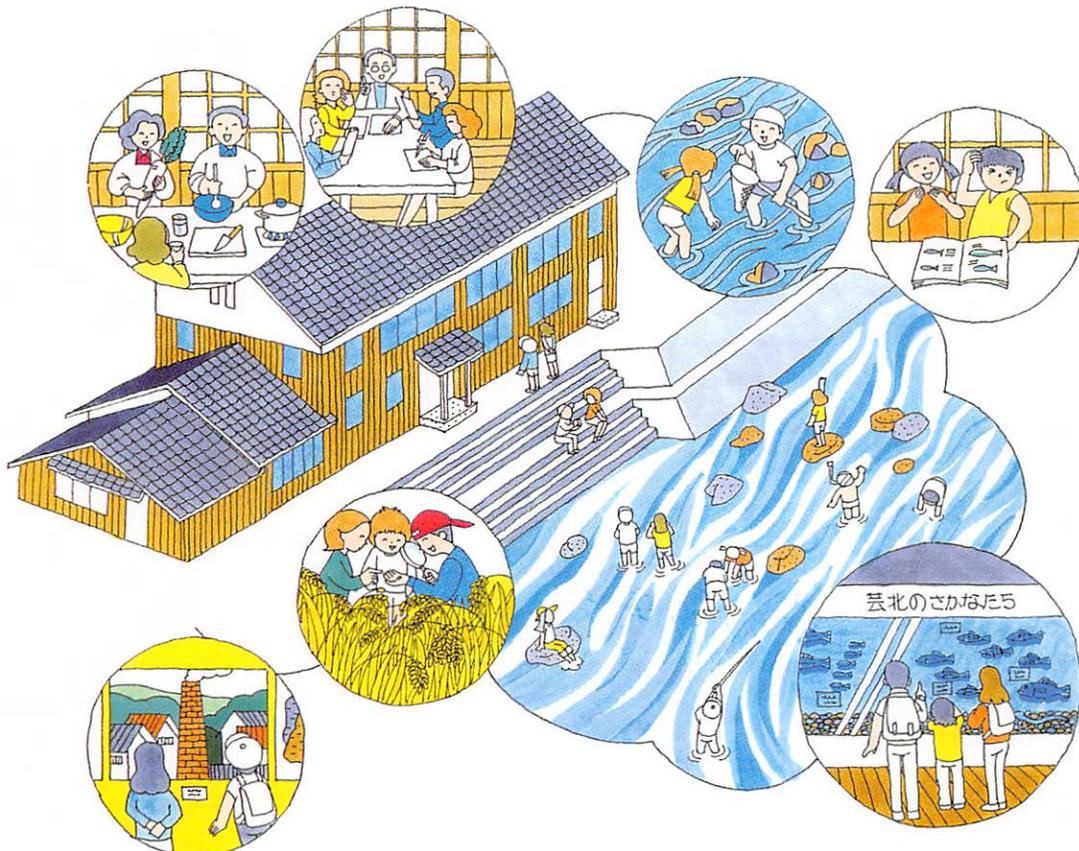


図14 清流の家の活用例



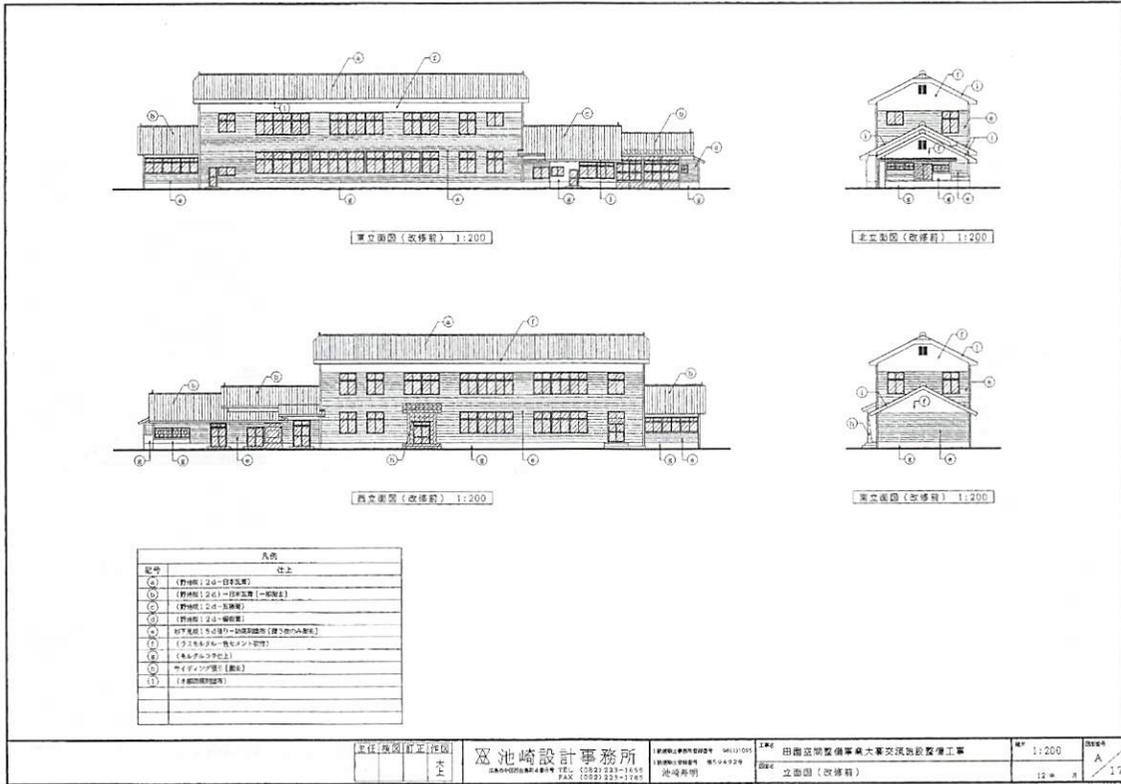


図17 清流の家 図面

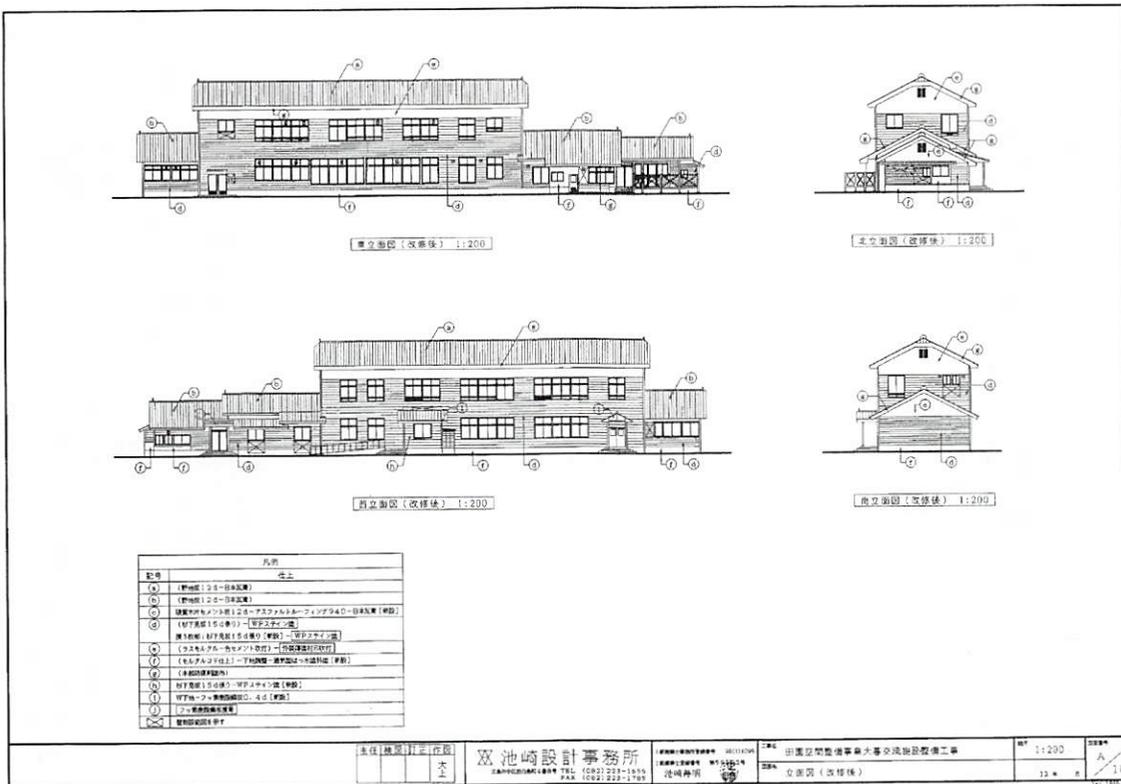


図18 清流の家 図面





教室解体状況



教室解体状況



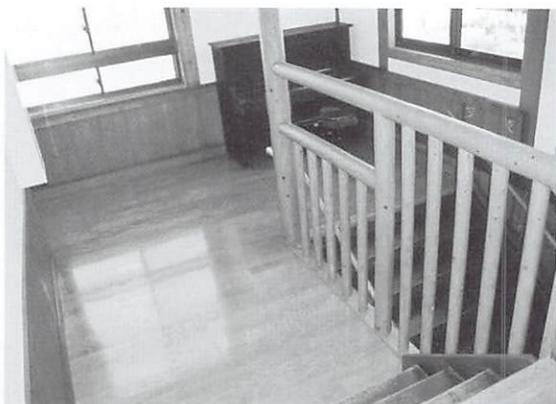
廊下解体状況



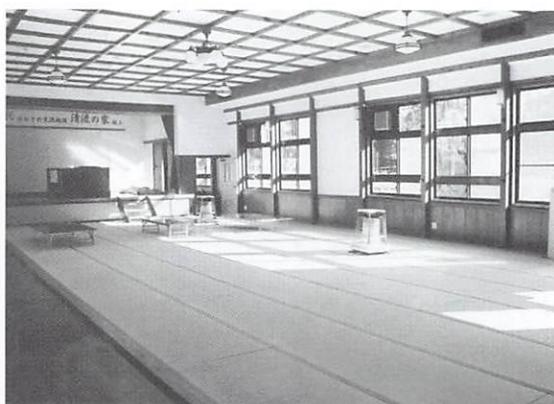
改修後廊下・階段



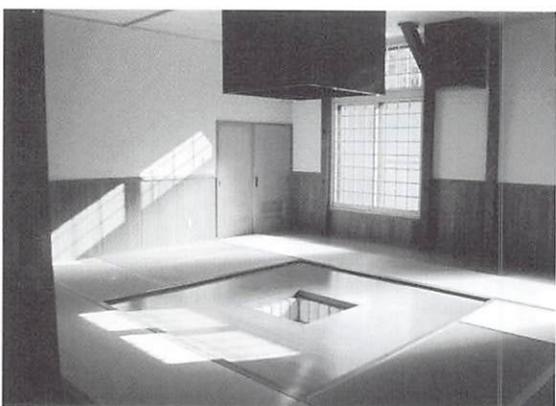
昔の面影を残す改修後階段



改修後階段・踊り場付近



改修後講堂



改修後打合せの間



改修後テラス設置

### ③ 製鉄所跡修景整備と説明看板

大暮地域には農業・農村の歴史とたたら製鉄の歴史があり、各家庭には製鉄関連の遺産がある。たたら製鉄は最後は山<sup>やまがた</sup>県製鉄所合資会社大暮工場となり、役目を終えた。

また、集落の背後には1000m級の山々が連なり、この山を源とする大暮川は豊かな河川景観美を作り出している。

これら製鉄の歴史と水とのつながりを重点に地域集落の田園を博物館としている。



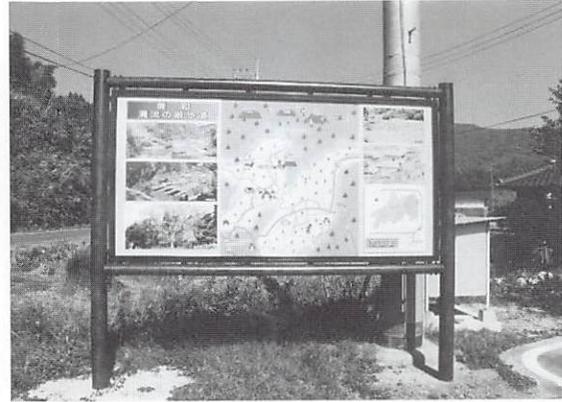
山県製鉄所合資会社大暮工場 施工前



山県製鉄所合資会社大暮工場 施工後



水車への水路跡



美和西地域全体の案内板



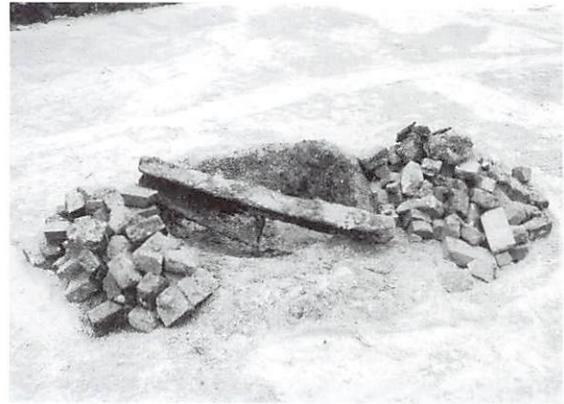
水車台



水車からの水の出口



溶鋳炉煙突



溶鋳炉跡

明治33年に政府によって山県郡の「たたら」の歴史は終わりを告げ、各所に残された鉄滓（大鍛冶屋の「かじやとくそ」）の山は、風雨にさらされていたが、これを利用して再生産する製鉄会社の設立を見ることになった。

明治34年、鳥根県の長瀬多五郎によってこの地に設置された溶鋳は、山県製鉄所と称し、後に野島国次郎の経営となり水車を利用した送風機を取り付けて大正14年まで操業を行った。

製鉄所の操業時には「かじやとくそ」「木炭」の収集と運搬に多くの村民が従事し、製品の一部からは農具や民具などの生活用品を作った。



刀匠正光屋敷跡看板整備

正光は石橋氏を称し、享和2（1802）年、刀工相州正宗の流れを汲む出羽直網の門人 森脇栄造の弟子であった幸十郎長政の子として高野村（現在の高野）に生まれ、後に高野石橋家から分家しこの地に居を移した。

正光は広島藩からその名技を認められ、年頭に当たっては藩主に謁見を許されるなど刀工の技術の高さが窺える。

正光は鍛刀の名技を持ちながらも一層の研究心に富み、常に刀工技術の研鑽を怠らなかったが、明治9年に魔刀令が出され刀剣の使用は禁止された。

#### ④ その他活動



田んぼの学校



大暮川での交流

みわがし  
美和東地域

① 整備内容とその関係施設

美和東地域において整備された内容は、サブコア施設となる「美和東文化センター」を中心に地域性豊かな農村景観と、これら関係する自然と歴史について位置づけ、芸北（芸北町）の西側となる八幡地域とは違う、谷あいの田園空間として整備している。その他、自然の豊かさを特徴づける「サクラソウの自生地」の説明板や地域のよりどころとなる照宮神社の説明板、美和東地域全体を案内する大型の案内板としている（図21）。

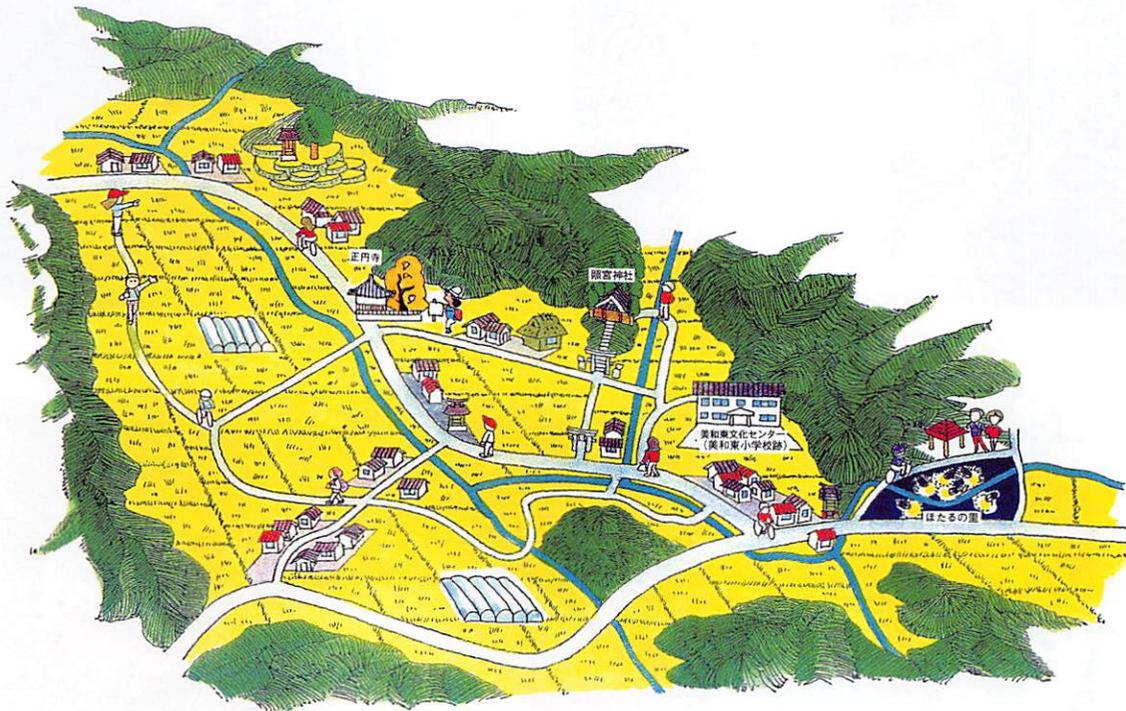


図21 美和東地域の田園空間博物館整備

② 美和東文化センター（サブコア施設）

この施設では、美和東（溝口周辺）地域の案内施設として位置づけているほか、地域の活力を見出す拠点として、芸北の食文化を継承するとともに、新たな食を創り出すことも行われている。また、農業文化を伝える施設として異文化交流や都市間交流を行っている。その他、地域の特産品を開発する拠点としても位置づけている。これら活動は地域のふるさと自慢推進協議会によって積極的に行われている（図22～28）。





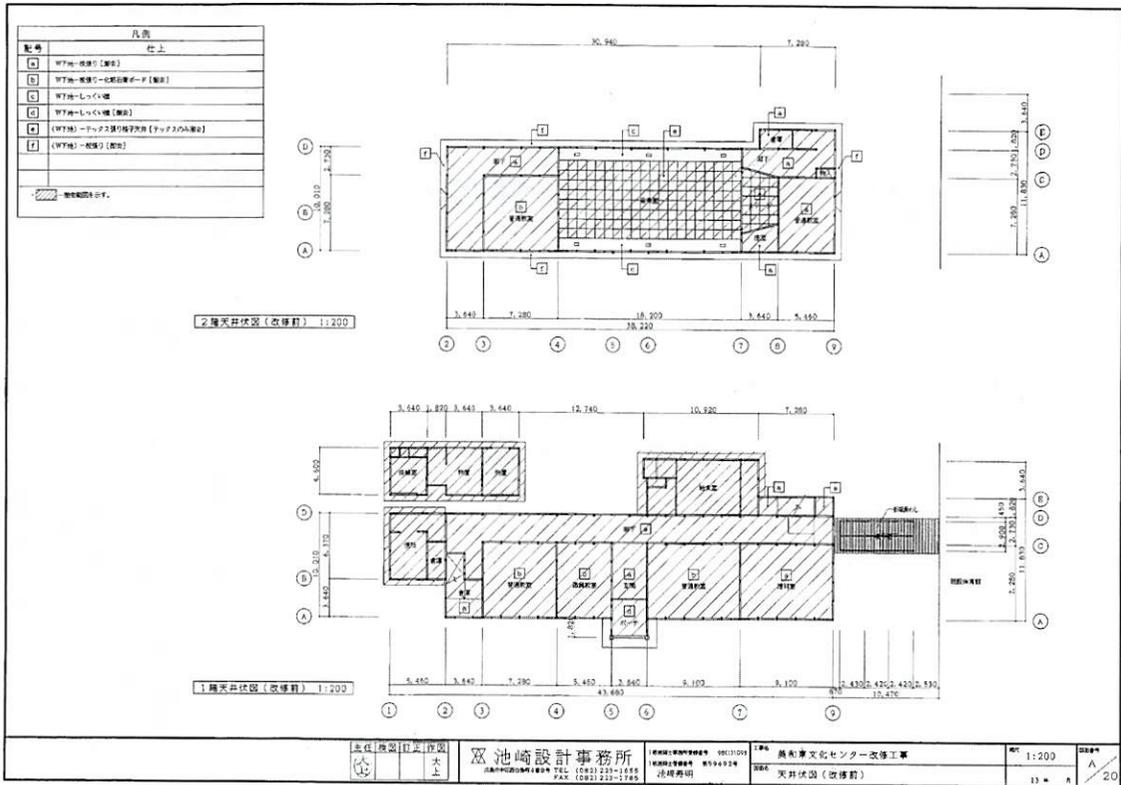


図25 美和東文化センター図面

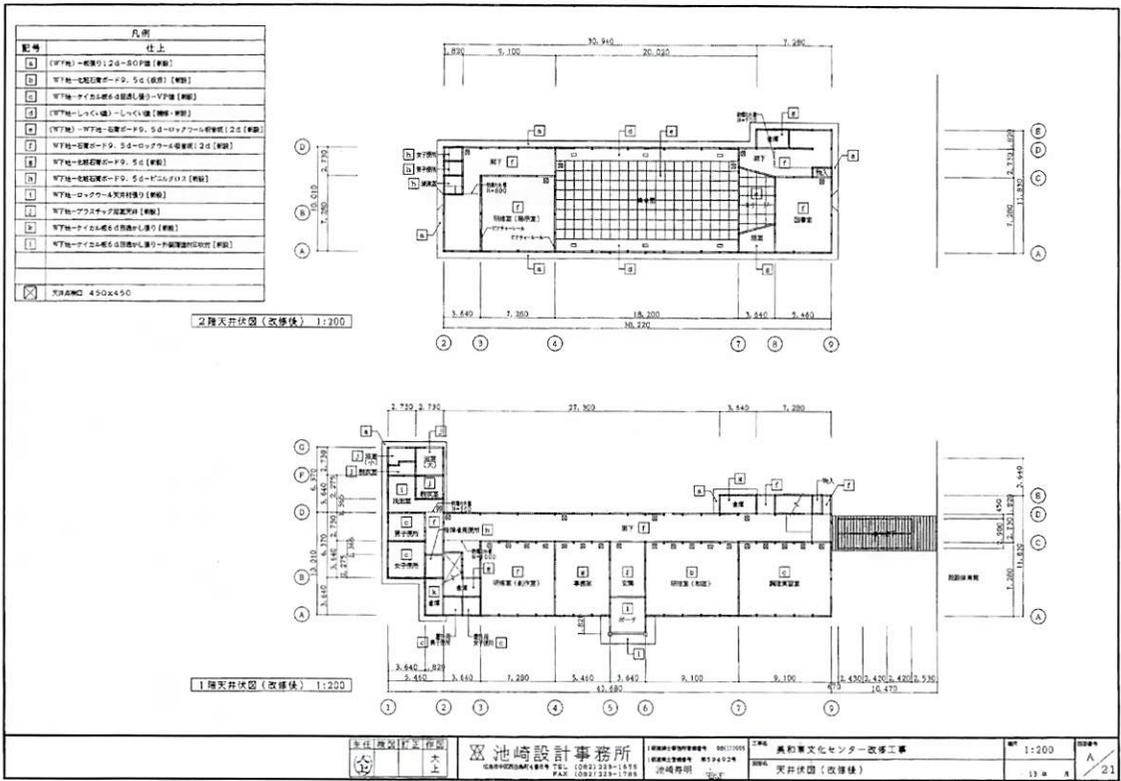
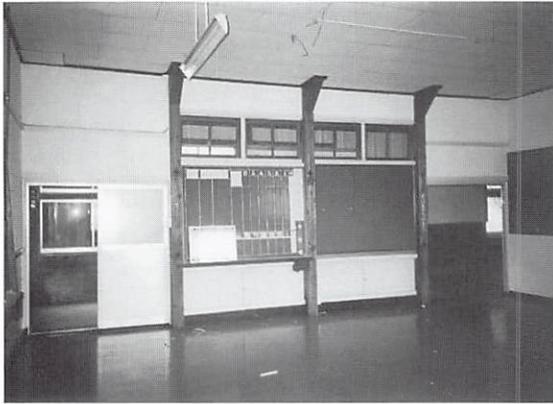
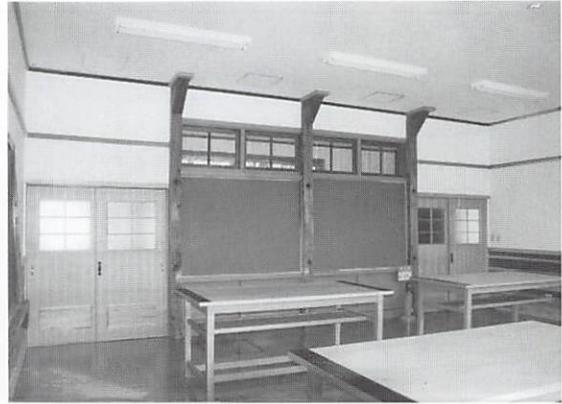


図26 美和東文化センター図面

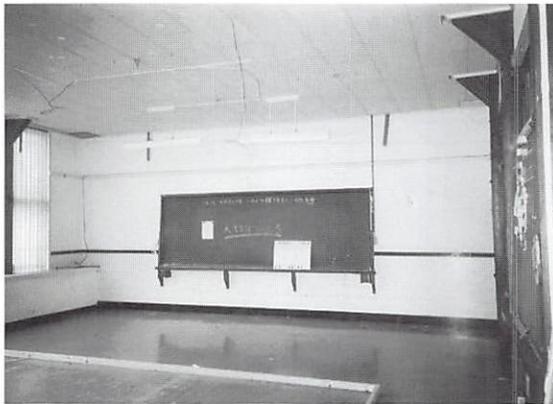




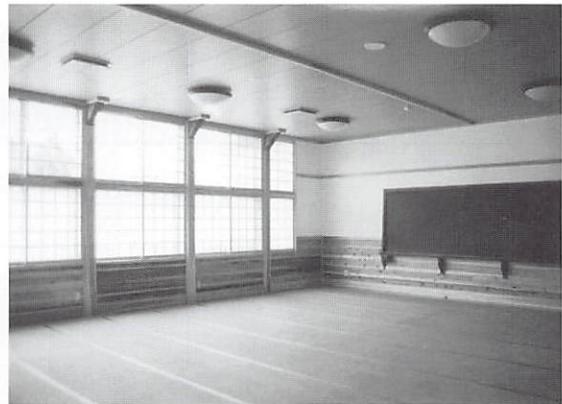
旧美和東小学校創作室 改修前



美和東文化センター創作室 改修後



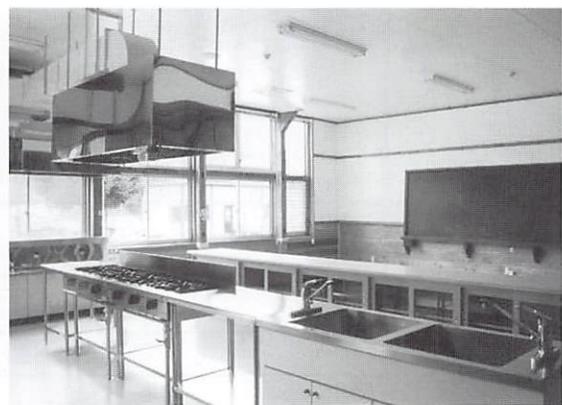
旧美和東小学校研修室 改修前



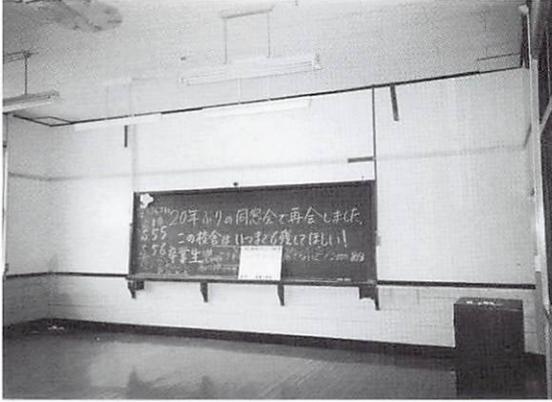
美和東文化センター研修室 改修後  
黒板は全てそのまま残し、利用している。



旧美和東小学校理科室 改修前

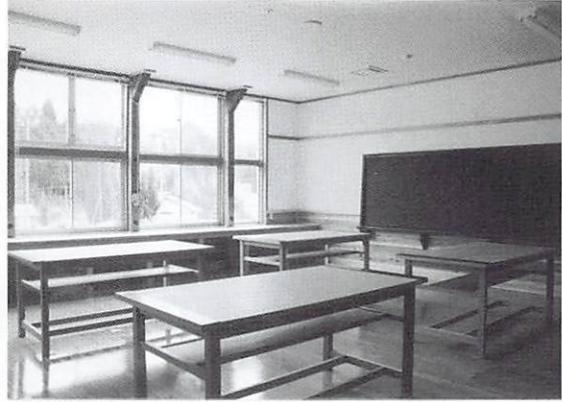


美和東文化センター調理実習室 改修後



旧美和東小学校教室 改修前

同窓会のメモリアルメッセージが残されている。  
「20年ぶりの同窓会で再会しました。この校舎はいつまでも残してほしい！S55、S56卒業生 できれば消さないでください。」と書かれている。



美和東文化センター創作室 改修後



旧美和東小学校講堂 改修前



美和東文化センター集会室 改修後

照明器具の一部は旧小学校で使われていたものを利用して  
いる。



旧美和東小学校廊下 改修前



美和東文化センター廊下 改修後

廊下の床は、旧廊下で使用されていた床板を裏返し、表面  
を削り再利用されたもの。

### ③ その他説明看板



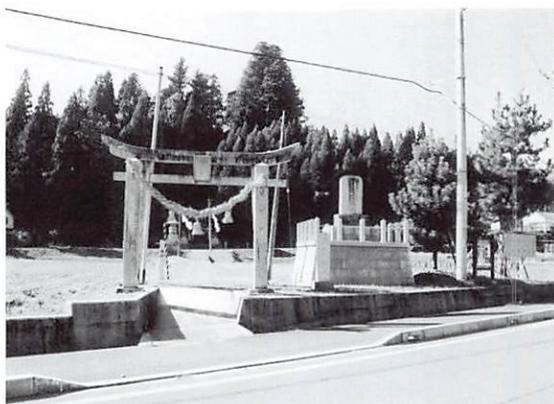
サクラソウの自生地

芸北(芸北町)に自生しているサクラソウは、絶滅危惧Ⅱ類(レッドデータブックに記載)とされており、その姿がかわいらしいことから、江戸時代の頃より園芸として育てられてきた。



自生状況

各地のサクラソウの自生地では盗掘や自然破壊、環境の変化などにより消え去ろうとしている。全国的にも希少であるサクラソウの自生地の保護は地元の自慢として取り組まれている。



照宮神社

神殿の彫刻に特徴を持つこの神社は、寛文3(1663)年に遷宮され地域の氏神様としてこの里の平安と五穀豊穡を祈願されている。

### ④ その他活動



サクラソウ栽培

組織培養によってサクラソウの増殖を行っている。

現在、美和東文化ホールでは、地元ふるさと自慢により大豆栽培を行い、美和の豆腐として試作を行うほか、海外交流など多様な交流事業に取り組んでいる。

## 参考文献

田園空間整備事業 「田園空間博物館」パンフレット  
芸北町教育委員会 小学校社会科副読本「わたしのまち芸北町」  
芸北町立芸北民俗博物館パンフレット  
芸北町 平成12年度田園空間整備事業 基本計画策定業務  
芸北町 平成11年度田園空間博物館整備地方委員会報告書  
芸北町 平成12年度田園空間博物館整備地方委員会報告書  
芸北町 平成13年度田園空間博物館整備地方委員会報告書  
芸北町 平成14年度田園空間博物館整備地方委員会報告書  
芸北町 平成15年度田園空間博物館整備地方委員会報告書  
芸北町 平成15年度田園空間博物館整備地方委員会平成11－15年度総括報告書  
施設整備設計図面 「生き生き暮らしの博物館」, 「大暮交流施設整備」,  
「美和東文化センター」  
施設整備現場管理写真「大暮交流施設整備」, 「美和東文化センター」  
全国土地改良事業団体連合会発行 21世紀 田園力を愉しもう。  
その他 打合せ記録簿など

## あとがき

広島県内唯一の田園空間博物館整備を行っている芸北町は、平成8年5月作成の「芸北町第3次長期総合計画」に位置づけられた「ときめき21プロジェクト」の一部「全町自然博物館構想」の実現に向け取り組まれ、平成15年度には理想的な博物館へと躍進している。

これらは、ひとえに地元住民の方々をはじめ、芸北町各関係課などの協力のもと取り組まれ、博物館としての意識向上はもとより、各地域にある「ふるさと自慢推進協議会」を中心にふるさとを守り、育て、継承する活動を積極的に行われた結果が実ったものと思われる。

今後、新たな地域の誇りと自身に満ちた取り組みを田園空間博物館として位置づけ、意識をさらに醸成し、日本の源風景と地域独自の居住空間が織り成す癒しと誇りによる独創的な「ふるさと」を守り、育てることが必要となっている。

また、平成の大合併のなか、本町においても例外ではなく平成17年2月1日（予定）には、合併が行われ芸北町ではなく、芸北地域となってしまう。このことから、今（平成16年1月現在）を最大限生かし、独立できる組織をつくり新たな気持ちで積極的に取り組み、自らの「ふるさと」を守り、誇りをもって維持できるよう体制を整えることが重要となっている。さらに、合併対象となる町についても多くの農業・農村に関連する遺産は数多く存在している。このことから広島県最初の田園空間博物館として強固な位置づけをもって、地元住民自らの宝として積極的に取り組むとともに、新たな地域資源との融合による交流促進を図り、日本国内はもとより国際的視野に立つようお願いするものである。

本報は下記の委員会を代表して委員長の中越信和がとりまとめたものである。関係された広島県農林水産部農村整備総室、広島県芸北地域事務所農林局農村整備課、芸北町の方々にその労に感謝する。事務局の広島県土地改良事業団体連合会には資料収集・加工に貢献頂いた。とりわけ則頭孝治、秋山浩三両氏の献身的な働きに深謝する。農林水産省中国四国農政局整備部農村整備課の職員の方々には事業計画にあたり、ご助言を頂いた。皆様、本当にありがとうございました。

平成11～15年度 広島県田園空間博物館整備地方委員会名簿

委員長	中越信和	広島大学総合科学部教授・日本景観生態学会会長
委員	前川俊清	広島県立大学生物資源学部助教授
委員	細川弘美	広島経済大学講師
委員	三好久美子	広島県生涯学習センター生涯学習推進マネージャー
委員	森田和稔	(株)広島ホームテレビ地球派宣言室部長代理
委員	上手 登	芸北町社会福祉協議会理事, 他
委員	河野一郎	芸北町代表監査委員, 他
委員	田中正之	広島県指導農業士, 他

2004年1月6日受付；2004年1月27日受理